

いやうであるが、斯くの如きは洵に愚劣なことである。侯の百二十五歳説なるものは、何等確乎たる科學的基礎を有するものではなくて、寧ろ長生を表白する言葉のあやであると共に、生活の價値は壽命の長短と正比例するものではないからである。

□
大隈さんは、一士族からあれほどの地位に上つた人だけあつて、推稱すべき長所を多分に具へてゐたが、その中で特に私の尊敬するのは、知識欲の旺盛であつたこと、教育や文化事業に理會と趣味とを持つてゐたこと、はらが奇麗であつたこと、子供らしい元氣と稚氣とを持つてゐたこと、草木花卉を好愛したことなどである。そして私の候に最も嫌らないと思ふ點は、深刻味又は澁味が缺けてゐたことである。

□
大隈さんを國民葬にするといふことは洵によい思付である。大隈さんの眞價は、民間政治家たり、廣義の國民教育者たり、國民の對外的代辯者たるところに存するから

である。この意味で、心ある國民は宜しく侯の死に對して誠實な弔意を表すべきである。併し、國民葬といふことが國民から言ひ出されたのではなくて、大隈家側から言ひ出されたことであるのは遺憾である。

この點に聯關して想ひ起すのは、侯を總長とする早稻田大學の學生が侯の病氣全快を穴八幡に祈願したといふことである。私は學生の動機の純眞であり誠實であること信ずるが故に一概に非難をしないが、大學生の態度としては輕々しく賛成することが出来ない。殊に私の最も心外とするのは、常に大隈侯を崇拜してゐる或る團體が、侯の病が革まると聞くや新年會の期日を繰り上げてやつたといふことである。眞に侯を崇拜してゐるのなら、侯が不歸の客となれば新年會はやれないから、危篤といふのかまはず生きてゐる中に急いでやつて仕舞ふといふやうな考が起りやう筈はないからである。

□

今年こそは年賀状を最も有効に活用しようと考えてゐたにも係らず、昨年末講習會をやつたり、大晦日まで著書の校正をしたりしてゐたので、とうとう月並のものを出して仕舞つたのはくやしいことであつた。併し、目の廻るやうな多忙の中で七百枚ばかりの年賀状の宛名を凡て自分の手一つで書いたのは、せめてもの心遣りであつた。私はどれ程忙しくとも、せめて年賀状の宛名だけは自分で書きたいものであり、書くべきものであると思つてゐる。宛名を書く時に、一人々々其の人のことを想ひ出し、其の人の幸福を祈つてこそ、はじめて年賀状の價值があると思ふからである。書生や子供に任せ切りにして宛名や番地を間違つてゐるのも知らず、おまけに半月も前に年賀郵便に托して置くやうでは、殆ど虚禮に近いと信じてゐるからである。

私は往復葉書で返事を要求される場合、返信に差出人の宛名が敬語なしに又は「行」とか「中」とかいふ文字を付けて豫め書かれてゐるやうな時でも、「様」とか「御中」と

かいふやうな敬語をつけて返すやうにしてゐるが、差出人が自分で自分の宛名に「様」や「御中」など記して置くと少からぬ不快を感じずにはゐられない。

大晦日の午後、私は例に依つて家事を片付けてからぶらりと家を出て、電車で神田に行き一二軒用事を済し、それから又電車で數寄屋橋まで行き、銀座通りに出て書畫骨董品屋を六七軒覗いて見た後で丸善に立寄り、一時間許り書物を漁つて氣に入つたものを買ひ求めたが、大晦日の五時近くであるにも係らず、ふだんよりも客の多かつたことは一方ならぬ愉快であつた。それから又電車に乗り、神保町で蓄音器のレコードを四五枚買ひ求めた。その際他の客の聽いてゐるレコードは大分すれ切れたものであつたが、その人は初心の人と見えて何もいはずに求めて行つた。私はレコードがいたんでゐることを教へてやりたいと思ひながら教へることが出来なかつたので、少からぬ苦しみを感ぜずにはゐられなかつた。

婦人自覺の叫聲がしきりに聞えるにも係らず、大多數の婦人が殆ど無自覺な生活をしてゐることは、毎月の婦人雑誌に徴して明かなことである。私は、新聞紙上に堂々と顯はれる婦人雑誌の醜陋低卑な廣告と、雑誌屋の店頭にゴロ／＼と並んでゐる惡どい婦人畫の雑誌表紙とを見る毎に、不快と寂寞とを感じずにはゐられない。

松が取れて間もない一夜、「火事だッ！」といふけたましい叫聲に一家一齊に飛び起きた。私は直ぐに雨戸を開けて見たら、一町と離れてゐない所から火焰が旺んに立登つてゐた。幸にも風がないことが判つたので一安心したが、雨戸を開けた刹那にはかなりの驚駭を覺えた。間もなく火事は一軒だけで鎮火したが、私はしみ／＼とふだんの用意の足りないことを悟つた。ひとり火事ばかりでなく、「まさか」とか「よもや」とかいふ横着な利己的な運命觀が不幸の原因となることを、私は今更の如くに痛感した。

た。で、夜が明けけるまで家族全體が集つて火事の時に處する相談をしたり注意を與へたりした。

由來私は火に對しては殆ど先天的の恐怖心を持つてゐる。それでゐて私は火を絶やすことが非常にさうひである。で、就床前には何時も手づから火をおこし、又それをしつかりいけて寢に就くのを長い間の習慣としてゐる。早稲田に在學中友人とうちを一軒借りてゐた時の如きは、戸じまりをして出たうちに途中から引き返して火をあらためて見るやうなことも度々あつた。今でも家内のゐない時に外出する際には、「まア坊と火を氣を付けて呉れ」といつも判で捺したやうに留守居をするものに注意するのである。

最近、月島にゐる一知人から面會時日を訊ねて寄越したので、或る時日を記して返事をやつた。ところがその日になつたが待てども待てどもとう／＼姿を見せなかつた

ので少々憤慨してゐると、二三日後にその人から手紙が届いた。文面によれば、私が宛名を「京橋區月島」と書くべきのを「深川區月島」と記したので葉書が遅着して訪問の間に合はなかつたとのことである。向うで只月島々と書いて區名を記さなかつたためとはいへ、自分の方に落度がありませんながら知人をうらんでゐたのを思ふと、かなり強い羞恥と悔悟とを感ずるのであつた。更に、私は、これまでこのやうな不當な怨恨を以て人に對したことが幾度あつたか知れないと思ふと、何となく空恐ろしいやうな氣持に襲はれるのをどうすることも出来なかつた。

□

一月の或る日のこと、子供を連れて角筈の親類に行く途中、四谷見付で電車を下りて乗換の來るのを待つてゐると、向うから一人の陸軍將校がやつて來た。と、私の側で同様に電車を待つてゐた一人の陸軍大尉がくるりと向き直つて青山の方を見てゐた。やがて歩いてゐた軍人——少尉が私達に近寄つて來ると、よそ見をしてゐる大尉の背後

から嚴肅な敬禮をして通り過ぎた。下級者に敬禮をさすまいとしてわざと背を向けた大尉の心にも、見えぬ背後から眞面目に上官に敬意を表して行つた少尉の心にも、美しく尊い眞人の魂の光を見出すことが出來たのは、私の思ひまうけぬ歡びであつた。

□

大隈侯逝去の噂が喧しい最中に山縣公が永眠した。それに次いで樺山伯が世を去つた。何ぞ凶事の多きやと云ひたい程である。けれど凶事は毎日々々到る所に起つてゐる。毎日々々色々な人が死んで行く。只それらの人達が原氏や大隈侯や山縣公などのやうに有名な人でないために世間の問題にならないだけである。これらの有名な人が引き續いて亡くなるのを見て今更のやうに悲しむのは淺薄な思想の持主である。……私は寧ろこれらの所謂偉人たちの死よりも、氣ちがひの父や働のない母や幼い妹たちを後に残して突然死に行いた一少年労働者の死を聞いて一層多くの哀愁を覺えるものである。

人格は絶対的存在であるかぎり、人間の價値を正確に比較するといふことは到底不可能なことである。大隈侯と山縣公との優劣を論ずるが如きは結局徒勞である。大隈侯もえらかつた。山縣公もえらかつた。只そのえらさの内容が甚だしく異つてゐた。餘りに月並な比喻だが、大隈侯が秀吉なら山縣公は家康である。そして私は兩者のそれ〴〵に理想的人格の一大特質を見出すことが出来る。随つて私は、大隈侯にも多分に推稱すべき美點があると思ふと同様に、山縣公にも亦多分に尊敬すべき長所があると思ふ。

私が山縣公について感じてゐることの中で最も大きなものは、公は何事に對しても眞劍で熱心で徹底的なことである。たとひ風雲に乗じたとはいへ、公が微賤から身を起して位人臣を極めるまでに到つたのは、主として眞劍と熱心との資であると思ふ。

公が郷里で學僕中に同藩の身分高き一青年から受けた侮辱が發奮の動因だといはれるのも恐らくはうそではあるまい。死の間際までも新思想や西洋の事情などを研究してゐたといふことも、恐らくは空事であるまい。これに亞いで私の感じたことは、公が相當に興味を解したことである。兵馬倥傯の間に於ても、輔弼の大任に膺つてゐる時にも、歌を詠み詩を賦し筆を執つたことは、たしかに床しいことである。勿論、これらの趣味は非常に卓越したものではない。併し、金や女や權勢以外に何事も知らない今日の大官や富豪や、冷たい理窟だけを生命としてゐる學者などに比しては、たしかに一頭地を抜いてゐる。詩歌は判らないが筆跡も美事である。殊にそれが野趣を脱してゐないのがよい。噂に依れば、公は書は稽古すべきものではなくて觀照すべきものだといつて時々弘法大師の筆跡をながめてゐたさうだが、これはたしかに面白い話である。それから、公が身を持するに儉素であつたといふことも推稱するに價する。自分が豪華に流れる時には軍人に對して惡影響を與へるからといつて儉素にしたとのこ

とであるが、若しもこの噂が本當であれば床しい心掛である。

かういつたからとて、私は勿論公の全體を推稱するものではない。公の人格にも生活にも、殊に思想に於て幾多非難すべきものがある。私は只、公ばかりではなく、その人の短所の故に凡ての長所を蔑視する一般人の偏見に與したくないために、私が公の長所と思ふ所について一言したのみである。尙、公の葬儀が大隈侯のそれに比して人氣が甚だ少いといふ理由から、公を侯よりも劣つた人物のやうに速断するものも少くないが、これは私の賛成し得ないところである。人氣の多少が決して人物の價値の大小ではないと共に、兩者の葬儀に人氣の多少の差があつたのは、時期の早晚、國民葬と國葬との別、民衆との關係の親疎、生活内容の廣狹、其の他種々の事情と關係とがあつたからである。——但し、公平にいへば、大隈侯が山縣公以上の人物であつたことは改めていふまでもない。

□

老優段四郎も死んだ。私には正月の明治座で演じた『日吉丸稚櫻』の五郎助が優の見納めであつた。當時私は長男の猿之助、三男の八百藏、四男の小太夫と一座し、且三子共何れも好評なのを思ひ合せて、優の幸福を羨んだ程であつたが、それも束の間、思へば果敢なきは人の運命である。三人の息子達が何れも東京にゐながら優の臨終に間に合はないばかりか、親の死のために一日も舞臺を休まず、殊に猿之助の如きは、親の死を一座の俳優たちに話すと舞臺に悪い影響を與へるのをおそれて何事も云はなかつたといふのは、感慨の深い話である。——轆轤不遇の間に人となり、時には音羽屋に時には成田屋に贊を執り、或は破門或は懲罰の憂目に遇ひながら、遂に梨園の一名花となり、而も子息達は皆多望な前途を持ち、就中長男は今や斯界の新人として滿都好劇家の注目の的となつた今日に於て瞑する段四郎は、或る意味では大隈侯や山縣公よりもはるかに幸福な人であるといつてよ。

□

満都好劇家の血を湧かした吉右衛門の『大藏卿』を見て、吉右衛門の好きな私は勿論感激した。併し、それよりも私は大藏卿役者として吉右衛門と並び稱せられる中車が、神妙に熱心に誠實に鬼次郎を務めて、子供のやうな年配の吉右衛門に花を持たしてゐる態度に數層の感激を覺えた。

□
或る雪の日、けたまほしい鳥の悲鳴に書き物の手を止められた。障子を細目に開いて小庭を見ると、降り止んだ雪の上でもづが何かしら小禽を捕へてしきりに嘴で突つついてゐた。助けを求めるらしい悲鳴が益々強くなつて來た。私は叱聲を放つてもづを追はうかそれともその儘にして置かうかとためらつてゐるのも束の間、悲鳴が一しきり聞えたとおもふと、もづは羽ばたきをして飛び立つた。そして彼の口には小禽がくはへられてゐた。小庭の雪の上には羽毛が散らばつてゐた。禽の悲鳴はそれつきり聞えなかつた。——私ははじめて『ハムレット』を讀んだ時に感じたと同じやうな悲哀

に打たれて窓を閉ぢたが、姑らくは筆を取り擧げることが出来なかつた。

□
或る富豪がジョッフル元師に羽子板を贈つたのはよいことであるが、それが人間のからだよりも大きなものであつたのは、切角の美しい企を根本から破壊するものである。何故なら、羽子板は片手で使用し得るものであつてこそはじめて價值があるからである。

□
數へ年四つになる三男に『花咲爺』の話をする度に、意地悪爺さんがボチを殺した所になるといつも涙ぐむので、近頃は其處を飛ばして話すことゝした。それから或る時『兎と龜』の話をする、「兎がねんねしない、龜がねんねをするんだ」といつて聞かないので譯を聞くと、「兎が龜よりも好きだから」と答へたので、私はそれから「兎と龜」のはなしをしないことにした。

尋常一年生の二男が時々自分の住居の小さいことや二階のないことを不平らしく話すことがある。近頃も同級生から「君のうちは小さいね」といつて冷かされたとかやしさに話した。私はかういふ話を聞く毎にいろ／＼な感慨の湧くのを禁ずることが出来ない。中でも私は、うちの大きいことを自慢する心にもうちの小さいのを恥しがる心にも、同様に打ちすてゝは置けない不良の分子が介在してゐることを一番おそろしく感じた。これと共に、私は、子供が自分のうちの小さいことなどは子供自身にとつて決して恥しいことではない理由をはつきり子供に理會させることの困難をも感じた。私は序に、子供時代にうちが貧乏であつたことや、學生時代に寢食を忘れて勉強したことなどを出来るだけ平易に話して聞かせたが、本當の理會を與へることが出来なかつたのは、當然のことではあつたが悲しいことであつた。

□

近頃風のある日には、私の近所の久世山と云ふ高臺の廣場で男の子が盛に凧揚げをして遊んでゐるが、何時も二三人の大人がウナリのついた大きな凧を面白さうにそして得意氣に揚げてゐる。——私はそれを見る毎にいつもいはうやうのない不快と憤りとを感じる。彼等が大きな凧を高く揚げることによつて無邪氣な子供たちの傲りと向上心と幸福とを破壊してしまふからである。凧揚の面白味は出来るだけ大きな凧を出來るだけ高く揚げることにあるからである。

□

半歳許前に置時計の針を廻すねぢが失くなつた。私はその儘にしていつも毎夜自分でねぢをかけてまだ一度も時計を止めたことがなかつた。ところが最近胃を害した際にねぢをかけずに床についたので時計が止つて仕舞つた。それを見出したのが止つてから十五分も過ぎた後であつた。私は半歳の苦心を水泡に歸してしまつたのが口惜しかつた。けれどもやはりねぢを求めずにゐる。

もう春だ。南の小庭に鶯のさゝ鳴きも聞える。木々の小枝にも生氣が動いてゐる。私の生命も頼に活氣づいて來た。思ひ切つて勉強しよう。思ひ切つて働かう。

私は前號にも前々號にもこの欄で他人の死について筆を執つたが、今や自分の父の死について語らなければならぬ悲しい運命に遭遇した。私は三月十一日の昧爽に只一人の父を故山の郷家で喪つたのである。

父は四年前から腦細胞萎縮症に罹つてゐたが、昨年二月母が亡くなつた後は病勢頼に昂進して時々危険状態を示した。昨夏歸郷した時には幸に幾分病勢が怠つてゐて、午前中は私を認知することが出來たが、併し全快の希望は到底認めることが出來なかつた。爾後半歳、私の心はいつも悲しい急報を待つやうな状態にあつた。その急報は遂に來た。而も僅々一時間の中に「危篤」に次ぐに「死亡」の通知であつた。永

い間覺悟してゐたことはいへ、この悲報に接しては流石に哀愁の涙を止め得なかつた。一年一ヶ月の間に引きつゞいて兩親をうしなひ、而も何れの死目にも遇へなかつたのは、定まる運命とのみ悟り切ることは出來ない。私は今更の如くしみぐと孤獨の悲哀を感ずるものである。

母は末期に際して私どもや孫たちの行末について思ひ煩つてゐたが、父のことについては割合に懸念しなかつた。否寧ろ父の亡きがらは自分の墓地からずつと離して埋めるやうにとさへ言ひ遺してこの世を去つた。實際亡き兩親は長い間喧嘩をし通して來た。併しそれは決して愛情がないためではなかつた。果然父は母が亡くなると斷えず母の名を呼びつゞけてゐた。時には母の死を忘れて、母を迎へに行くといつて只一人村内の温泉場を指して出かけたこともあつた。時には母の死を想ひ起して深い悲哀に沈むこともあつた。狂へる父の心は只母を慕ふことで充たされてゐた。斯くして母

の名を呼びつゞけながらこの世を去つた。——私は、母の遺言にも係らず、母の墓地の直ぐ南隣に穴を堀るやうに穴堀の手傳に來た組合の人々に依頼した。

□

老年になるに従つて、男は妻を愛する心が強くなり、女は子を愛する心が強くなるのは、ひとり我が兩親だけのことであらうか。

□

十一日、十二日、十八日、二十六日と佛壇に燈明を灯す日が頓に多くなつて來た。併し、忌日とか命日とか佛事とか供養とかに囚はれてゐる間は未だ眞に宗教的になつたのではない。眞に親や子の死を悲しみその冥福を祈るものは、四六時中心の祈りを断やす筈がないからである。

□

母を喪つた時に比して父を喪つた時の悲哀が幾分少いやうに思はれた。そしてこれ

は私一人ばかりではなかつたやうだ。これには勿論いろ／＼の理由があるが、既に親の死に伴ふ悲哀を経験してゐるといふことが少くとも其の一つの理由であるのが、私にとつては悲しいことである。大悟徹底とか悲喜苦樂を超越するとかいふことは或る意味では人生の最大悲哀であることを理會する人のみ、はじめて秋水のやうに澄んだ達人の心境に對して心からの敬意と同感とを拂ふことが出来る。

□

生活を奉仕と見る見方は間違つてゐない。併し、奉仕を單に便所掃除といふやうな最も低級な筋肉労働と思ふことは斷じて間違である。修養の眞最中にある青年男女が、修養の意味に於てではなくてこの種の奉仕に浮身を籠すことは最も由々しい誤謬である。

□

官人の行爲の中で最もいやなもの、一つは、形式的な辭表提出や進退伺である。昇

格運動に熱中してゐる高師の教授學生たちが断えず連袂辭職とか總退學とかいふことを口にしてゐるといふのも、私には甚だしい不快事である。

□ 或る客觀的な形式で感謝の意を表することは、感謝の對象が明かになつてゐる時に於てのみ意義を有するものである。この點から見て、私は新聞紙上に掲げられる火事や葬式や歡送迎の禮廣告に對して反感を懷かざるを得ない。

□ 博覽會が開かれた。さなきだに浮かれ易い春の東都はそのために一層浮き立つてゐる。私は猥雜がきらひだ、浮薄がきらひだ。地方の人達が異様な風態と卑俗な言葉とをしながら、ぞろ／＼と市中を歩き廻つてゐるのを見ると不快感を禁じ得ない。殊に、若い女などがゴテ／＼と厚化粧をしたりケバ／＼しい着物を着たりして都會の女を眞似てゐるのを見ると嘔吐を催しさうにさへなる。あはたゞしく見た博覽會や東京

の印象が彼等にどんな影響を與へるかと思ふと、私は戰慄を覺えずにはゐられない。私は一日も速く博覽會が終つていつもの東京に復ればよいと祈つてゐる。

□ 東京の或る女學校が火を失した時に直ちにそれを放火と斷じ、且其の犯罪者が事務員と衝突して去つた元の小使らしいといふ噂が新聞に掲げられた。放火と斷じたことは必ずしも不當なことではないが、その嫌疑者の氏名を輕々しく發表することは斷じていけない。新聞紙は事件を敏速に報導することばかりでなく、記事の正確を保つことにも注意して欲しいものである。

□ 三月下旬の一日、或る音樂専門の女學校の卒業式に招かれて楽しい半日を過した。演奏會に出演する少女たちが、自己の技藝の優秀を信ずることに伴ふ落ちついた態度は私に少からぬ快感を與へた。常には念頭に置かない「女學生」の中にも、自分の專

門にかけては何人にも一步もゆづらない卓越性を具へた人達が決して少くないことを思ふと、「女學生」であるが故に一概に輕視することが出来ないといふことを今更のやうにしみじくと感じた。

演奏者は何れもよい出来であつたが、遺憾なことは生徒全體を活動さすことを忘れた點であつた。數百人中僅に十數人だけが演奏した他は、一回も歌ふことも奏でることも出来ないといふことは決して喜ばしいことではない。殊に音樂のやうに團體的演技の最も容易なものに於ては尙更のことである。

何か事がある度に私は文明の恩澤を心から感謝せずにはゐられない。百里の遠距離の間を僅に二時間で用を便し得る電信をはじめ、汽車電話自動車等悉く感謝の種でないものはない。殊に、汽車の如きは、非常に混み合つてさへゐなければ本を讀みながらも仕事をしながらも寝ながらも目的地に到達することが出来る。宗教の一大要素は

感謝でなくてはならない。けれども神社佛閣の前に於てする感謝だけが宗教だと思ふものは、宗教に囚はれたものである。一本のペンにも、一器の鍬にも、一丁の算盤にも、否生きてゐることそのこと生れて來たことそのことに、心から感謝することが出来る人のみ、眞の宗教生活を營むことが出来る。

乗物の中で私の一番きらひなものは人力車であり、その次は馬車である。私のために苦しむものが目に見えるばかりでなく、私と曳手との位置が殆ど正反對だからである。

春だ。春だ。花に浮かれる人は花に浮かれよ、酒に狂ふ人は酒に狂へよ。只虚偽にのみ陥るな。「何ごとぞ、花見る人の長刀」。ほんとうに花に陶醉し得る人は果してどれだけあるか。見えの花見、義理の花見、人に見せるための花見、金を費ふための花見

…風に吹き風に散る花にはぢよ。生酔の花見と假装の花見とは私の最もきらひなものである。

□
これまでの我が國賓中で、英國皇太子程深い感銘を我が國民に與へた方は恐らく一人もなかつたであらう。少くとも私は、皇太子の御動靜に關する新聞記事を読みながら何時も深い感慨に打たれずにはゐられなかつた。殊に、自由の獲得のために一方ならぬ御配慮をなさりつゝあることを思ふと、涙ぐましい心にさへなるのであつた。

□
私の好きな新緑の候となつた。便宜の悪い高臺にも苗賣や金魚屋の美しいふれ聲が聞えるやうになつた。畧二ヶ月間日曜毎に試みる近縣への小旅行は私に少からぬ幸福を與へる。東海道線の汽車の中や停車場などに見る人々の大抵が元氣のよい小旅行客であるのも心地よいことである。いつも歸路の藤澤では満員になるが、それでも猥雑

な言語や粗野な舉動をするものがないのは最も心地よいことである。只一日、一人の身なりの悪い老婆が座席に着くと、先客の四十がらみの一婦人が高い聲で「お婆さん！ 茲は二等ですよ、三等と間違へたんでせう」と叫んだ。と、そのお婆さんは周章て、席を立つて隣の箱にうつつた。するとそれを見てゐた店員らしい一人の若い男が、連のものに「二等だつて三等だつていゝぢやないか、階級打破の今日だもの」と叫んだ。——私は、老婆に注意した婦人の心もその婦人を非難した青年の心も或る點では殆ど揆を一にするものを持つてゐることに想ひ及んで、暗い心にならずにはゐられなかつた。

□
或る日、某停車場から乗合自動車で某地に向ふ時のこと、自動車が前を驅けてゐる三臺の乗合馬車に近づいたので、道を譲るやうにしきりにブー／＼と合圖をしたが、後ろの二臺が片寄るにも係らず一番前の馬車は平氣で道の眞中を進んでゐるので、も

の五分ばかりの間自動車はぢれつたい除行を續けてゐた。私は知つても知らぬ振で道をゆづらぬ馬車馬丁の心を想察しながら、云ひ知れぬ暗い心で一刻もはやく馬車が素直に道を譲つて呉れ、ばよいと祈つてゐた。

□

家人が小さい子のために金魚を二尾買ひ求めた。私は其の金魚を見ながら暫く色々な追憶に耽つた。——私は子供の時には非常に魚捕が好きであつた。殆ど毎日のやうに近所の小川に網やビクや爛鍋を持つて魚捕に出かけた。併し、魚捕の本當の楽しみは釣にある。魚がゐるかゐらないかわからない所に糸を垂れて靜かにウキの動くのを待つてゐる伸びやかな心持、ウキが動き始めてから糸を曳き上げるまでの緊張した心持、この一弛一張の心持に魚釣の妙味がある。魚釣を偏にのんきな偏に間のぬけたこと、思ふのは非常な間違である。少くとも目の廻る程多忙な昨今の私は、のどかな春の一日を田舎で魚釣に過して見たいと思つてゐる。

時々こんなことを思ひながら眺めてゐた金魚が、手當が悪いためか間もなく一尾の方が死んで仕舞つた。私はいはうやうのない哀愁を覺えて、その小さな美しい死骸を近所の小川に捨てさせた。その後間もなく又二尾買ひ足したが、こんどは心配で、少し弱つたやうに見えても水を取り換へてやつたりした。

そして私は、小さな金魚が何もしはらず、殆ど何も食はず何の藝當もなく、只美しい尾鰭を微動させてゐるのを見ると、涙ぐましい心持になるのである。併しどうすることも出来ないの、せめて広い容物にだけでも入れてやらうと思つて、新しい金魚鉢を買ひ求めてそれにうつしてやつた。心のせむか、それからは金魚の元氣が幾分よいやうである。

□

晩春の一日、富山の藥賣が藥を取換に來た。生憎一帖も服んではゐなかつた。それでもいやな顔もせず、「えーえ結構です」といつて紙風線と針を三本置いて行つた。私

は春風に面を撫でられたやうにうれしい柔い気分になつた。

□
價値は絶對的のものである。殊に人格の價値に於てさうである。人物評をするものは、よく二人又は數人の人物を比較して誰と誰とが相伯仲するとか、誰が誰の上位にあるとか、誰が誰の下位につくべしとかいふが、これは洵に大膽なことである。それも人物の全體を具に比較した上の評價ならまだよいが、ほんの一部分だけを比較して論斷を下すのは、輕卒不謹慎を以て非難しなくてはならない。そしてこの非難は、ひとり人物評家のみの受くべきものではなくて、自惚の強いものも亦當然受くべき非難である。たとへば自分の唯一最高の長所を自分の先輩や當代の大家などの短所と比べて、自分が先輩や大家などをはるかに凌駕すると思ひ込んで得が得であるが如きはそれである。人間は皆萬能でないかはり皆それ／＼長所を具へてゐるのであるから、自他の比較評價は全體的のもの少くとも長所と長所とを以てするものでなくてはなら

ない。

□
私は或る人を外國語の力のない點で非難した。それは外國語の力が人間の價値を定める最大條件だといふ意味でもなければ、勿論私自身が優れた外國語の力を具へてゐるといふ意味でもない。只その人が殆ど外國語の力がないのに、如何にも外國のことに精通してゐるかのやうな態度で著述をしたり論文を書いたりしてゐる心事を非難したのみである。本物を知らずに満足してゐる學問的良心の缺如を非難したのみである。

□
更衣の時となつた。富める女や若い女や美しい女が争つて流行におくれまいとしてゐる。併し、流行の奴隷となつて自分の不聰明を表してゐるのも知らずに却つて得意げに新装を凝らしてゐるのは、只富める若い美しい女だけであらうか。

□ 悲惨な殺傷事件が頻發する。時節柄とはいへ寒心に堪へない。憎むべきは兇惡な下手人である。併し、事件の真相を精査すると、殺傷される人々の心掛にも幾分間然するところがあるのは残念なことである。大聲で騒ぎ立てたり、無暗に抵抗したり、力自慢に取抑へようとしたりするのがそれである。

□ 平和博には幾多の醜惡事が伴生した。最近行つた福引の如きも甚だ不快なことのひとつである。入場者増加のためとはいへ、餘りに愚劣な催しである。經費の損失はいくらも償ふことが出来るが、觀客の徳性の損失は恐らく永久に償ふことは出来まい。

□ 東京市會議員改選の時が近づいた。例によつて小石川區は競争が激烈である。候補者は何れも必死の運動をしてゐる。苟くも立候補するかぎり誰でも當選を望むのは當

然であり、随つて運動に全力を注ぐのも亦尤もなことであるが、こちらが全然問題にしてゐない候補者から、如何にも其の人に同情を表してゐるかの如き意味の依頼狀や謝狀などを送られるのは不快なことである。

□ 地方の講習會などで私の一番注意するのは、どうすれば最も有效な成果ををさめることが出来るかといふことである。少數の進んだ人々に満足を與へるやうにすると大多數の人々を犠牲にしなくてはならないし、大多數の人々に満足を與へるやうにすると少數の進んだ人々を犠牲にしなくてはならないし、そして何れも私の忍び得るところではないからである。併し、私は少數の進んだ人は別な機會で勉強をすることも直接私と語り合つて私の知つてゐるだけを知つてゐることも出来ると思ふので、いつも後者を選び、且質問を歓迎してその缺點を補ふやうにしてゐる。それにも係らず、自ら質問も論議を取交すこともしないで講義の低級なことを非難する人があるのは遺憾なこと

である。

□ 「盗人の逆さうらみ」といふことがあるが、私も時々これに類似した経験をすることがある。それは面會のことに多い。私は多忙であるために面會日を定めて水曜の午後と日曜の午前とに來客を待つこととしてゐる。勿論、地方から出て來た人や、急用の場合や、前以て都合を聞いて置く人や、私が忙くない時や、親友や親戚はこの限りではない。それでも早朝や食事中や夜分などは出来るだけ面會を謝絶してゐる。止むなければ玄關で用事を聞くことにして置く。私の第一義生活と家庭の幸福とを傷つけるに忍びないからである。これは私が來客に對する時ばかりでなく、私が他を訪問する場合にもこの方針に反しないやうに必掛けてゐる。——最近突然早朝（午前七時頃）と晚餐時とに來た人にこの方針で玄關で面會したら、一人は直接に手紙で、一人はその編輯してゐる雑誌の上で不平を漏らしてゐた。併し私は何處までもこの方針を確守

するつもりである。

□ 國技館の夏場所が終つた。私は場所毎に少からぬ哀愁を覺えるものである。餘りに力士たちの榮枯盛衰が速いからである。その勝敗とそれに伴ふ禍福の差が甚だしいからである。勝利が直ちにその次の敗北を思はせ、榮進が直ちにその次の衰退を想はせるからである。更に、一年中の成績によつて力士の地位待遇が定められるのではなくて單に一場所だけの成績で定められるからである。

□ 「名は體を現はす」といふことは必ずしも絶對の眞理ではないが、少くとも一味の眞實は道破してゐる。論文や著書の標題などには大抵仄かに作者の人格が現はれてゐる。私はこの意味で最近公にされた某閨秀作家がその創作集に『小説六つ』と題したことを著者自身のために惜むものである。

内閣が更迭した。私はいろ／＼な意味で憲政會内閣の成立を望んでゐたが、加藤内閣が成立した上は加藤内閣に信頼してその善政を祈る他に途がない。政治的興味と比較的に少い私には、政變といふことも政變そのことにはさして深い興味も惹かれないが、政變に伴生する諸多の現象にはかなり心が動かされる。——いつも賣名の徒が騒いだり、公人の私的關係や政治家の野心が明瞭になつたり、新聞記者が腕比べをやつたりするのを見聞すると、かなり深い興味を感ずる。殊に最も強く胸を打たれるのは「官人の悲哀」といふことである。官人又は公人として何等の罪惡も缺點もないのに、只それが瓦壞した内閣又はその閣員と縁故が親密だといふだけの理由で、責任もあり未練もある公職を一朝一夕に辭さなければならぬ官人の悲哀である。吁、すまじきものは宮仕へ」か。

□

久方振で呂昇の「堀川」を聞いた。そして依然として美しい音聲と巧みな節廻しとに感歎した。併し、私には渾成された藝術ではあるが何等潑瀾たる新味を見出し得ないのが寂しかった。それにも増して寂しさを感じたのは、得意な語り物の幾種かをいつも殆んど版で捺したやうな節廻しで語つてゐる單調な生活に想ひ到つた時である。只ツレ引をした金昇の上達と其の容姿の若々しさが、私の陰暗な心野に一道の光明を點じて呉れた。

永しへの清新！ 私は常にこれを要めてゐる。どの方面でも大家といふものには清新味が乏しい。私は帝劇の「忠臣藏」を観た際に、定評あり且恐らく今日では天下一品とも稱すべき羽左衛門の勘平よりも、その初役の平右衛門の方から、幾多の缺陷があるにも係らず、一層強い感興を受けたのはこれがためである。

□

「去るものは日々に疎し」といふたとひの反對に始終そばにゐるものは深い愛着を感

ずる。二三尾の金魚や四五尾の目高にまですら私には殆んど愛兒に近い感じがする。そして彼等に對する私の愛は所謂責任を伴つた愛である。彼等は弱いからである。彼等の死生は私の手中にあるからである。彼等が死んだ際には勿論、少々弱つてさへも私は自分の責任を痛感して深い悔恨と羞恥とを感じる。併し、毎日食膳に上る鳥獸魚貝などに對しては何等の感懷も起らず、只其の味はひのみに心が傾いてゐるが、フトして金魚のことに想ひ及ぶと箸を投ぜずにはゐられないやうな暗い氣持になる。——私は、この頃漸く古來の優れた宗教家たちが肉食主義者となつたり絶食したりする心事を臆げながら想察することが出来るやうになつた。

□
金魚や小魚の仲のよいことは驚ろくばかりである。約一ヶ月の間私は只の一度も争鬪に類した有様を見たことがない。感情に動き易い私は、時々この無心な小魚に對して深い羞恥を感じることがある。

□
數年前から方々で「夏期大學」といふものが開かれ、且それが次第に隆盛になつて来るやうである。これは大體に於て洵によいことであるが、只特に夏季「大學」といふ名稱を附けるのが私の好みに合はない。形式も内容も何等「大學」らしくない三五日間の單なる講習會を「大學」と呼んで會員を募ることも、「大學」の名の下に多數の會員が集ることも、等しく醜惡なことだからである。少くとも私は信州木崎の夏季大學位の形式と内容とを具へてゐないものは夏季大學と呼んで欲しくないと思つてゐる。

□
大學で思ひ出したが、近頃の大学生否廣く學生の贅澤になつたには驚くのほかない。青年時代殊に男子は、どんな富裕な者でも服装には無頓着なものであるが、近頃の學生殊に女學生の服装の贅澤なものには殆どあきれ返らざるを得ない。併し、これは單に學生のみの罪ではなくて寧ろ社會又は家庭の罪であるといふべきものかも知れない。

い。殊に、東京のやうな大都會の女學生が華美な服装をすることは餘程大目に見なくてはならない。只私の遺憾とするのは、彼等の好みが偏に物質的であり皮相的であり低級なことである。彼等は只、値段の高いものやピカ／＼するものでありさへすれば満足してゐるらしいことである。殊にそれが今年になつて著しく襟巻と洋傘と夏羽織とに現れてゐる。——ビシャンコな下駄と穴のあいた半白足袋とを穿きながら花のやうな洋傘を持つた女、油と垢とでよごれた襟に天女の持物のやうな襟巻をまとつた女、猫のやうな長い爪に爪垢を貯へた手に絹の手袋をはめた女、蜘蛛の巢のやうな頭髮に瓦大のピカ／＼するピンを挿した女、國語教科書の五の巻と日本歴史と唱歌帳とをケバ／＼しい絹のふくさに包んだ女、色の褪せた袴とほこりをかぶつた靴とを絹の長靴下で連結した女、……今や東京はこれら怪物のやうな醜い女で充たされてゐる。そしてその大部分が女學生であることを思ふ時に、私はいはうやうなき哀愁と憂慮とを感ずる。藝術教育もよい。文學や音樂や繪畫を奨励するもよい。併し、それ

が不徹底な中途半端なものである時には寧ろ有害であることを忘れてはならない。私は教育の程度の低い下町の娘や、教育程度が低いのに加へて經濟生活の程度も低い事務員や女工などの中に、却つて自己を知つた、全體の調和のとれた、嗜味好尚の割合に高い服装をしてゐるものが多いことを想ふ時に、一層切實に女子の教育に従事してゐる人々の反省を促す必要を感ずるものである。

□

郷里から態々出て來た義母を案内して、先日はじめて平和紀念博覽會の第一會場を一巡したが、遺憾ながら私の心を惹いたものは殆どなかつた。評判の文化村も私は感心出來なかつた。賣店が邪魔なのと、あれだけの設備の利用法を知らないのとが不満の種であつた。私の心は寧ろ女看守人達の退屈さうな顔、賣店の女達の物欲しさうな聲、府當局の心痛などに惹かれるのであつた。尤も、設備の點ではかなり感心したものも少くなかつた。到る所に飲料水が湧き上り且それが衛生上の心配がないや

うにしたこと、便所やベンチや休憩所が多いこと、賣店の定價販賣勵行、平和館自治會館の特設、警察消防の設備などはその主要なものである。その後次男を連れて第一二會場全部を一巡したが、第一會場では軍樂隊の音楽とライオン水はみがきの含嗽とがまうけものであつた。第二會場では、朝鮮館の金剛山の風光と、臺灣館の樟の香と、電気工業館・動力館・機械館の諸機械と、交通館の世界一週の幻燈と、航空館の飛行器と、安つばい平和塔と、五錢の氷菓子を群り食べてゐる觀客とが印象に残つた。そして全體を通覽して私の最も遺憾に感じたことは、「平和」紀念の名にふさはしい設備がまことに少いことであつた。

□ 「岡目八目」といふが、人の批評殊にあらさがしは割合に容易なものである。私は、それだから批評をするな、あらさがしがわるいといふのではないが、それらは自己批評に即する時に於てのみはじめて有意義なものになるといふのである。世にはこの點

を理會し得ないために、自己の價値の少いことに何等の羞恥も憂慮も感ずることなしに、先輩などに對して「あの人はこの頃駄目だ」などといつて平氣な人が少くない。

□ 餘程進んだ考を持つた職員のある學校でも保護者會のことを「父兄會」と呼んでゐるが、これは是非保護者會又はその他の名稱に改めて欲しいものである。

□ 愈々盛夏の候となつた。山が想はれる、海が懐かしまれる。夏草の繁み、葉がくれの眞清水、男浪女浪寄せては返す濱邊の夕涼み、うたゝねの夢に入る松籟の音蟬の聲、水の滴るやうな清々しい蔬菜果實……吁、夏は田舎のほこりである。

□ 宮城縣の女教員殉難事件はかなり強い反響を喚起した。縣當局や地方教育會などが殉難者に對して最善の方途を講じたのはよいことであるが、殉難者の行爲を以て推

稱すべきものとするのは私の賛成し得ないことである。私から見れば、積極的ではなくて消極的であり、他に寄與貢獻することではなくて自己の果すべき責任を果さないことに對する償ひだからである。嚴密な見地から見れば、殉難者は、殉難に對する稱讃を受ける前に、自分の最愛の教へ子を教授時間中に數人も水に溺らしたことに對する責任不履行の非難の的に立たなくてはならないからである。殉難者にして周匝な用意を以て兒童に對してゐるかぎり、あのやうな不祥事は起り得ないからである。この點から見て、私は、殉難者が水に溺れた子供を救はうとした行爲そのものを是認するが、子供を水に溺らしたことは必ず非難すべきものであるといふ意味に於て、あの事件全體に關する殉難者の行爲全體を稱讃することは到底出來ない。私は寧ろ只不幸な人として心から同情と哀悼の意を表し、斯くの如き不祥事が永久に再び起らないことを祈るものである。この意味に於て、東京市が態々女教員を集めて殉難者を讚美し且これを模範とせよと訓話するが如きは、必ずしも機宜を得たものといふことは出來ない。

端的にいへば、寧ろ女教員を聊か低能扱ひにしたものといはなくてはならない。但し、殉難者が婦人であるが故に、これを機會として女子教育家の自重心を觸發することは必ずしも徒爾ではないが、その際には單に殉難そのものを讚美するだけに止らず、必ずこれと共に、斯くの如き不祥事を惹起さないやうに注意することが、眞に責任を重んずる所以であり眞に道徳的な行爲であることを十分に説述して欲しいものである。

□
道徳はよそ行きではない。一見しては道徳的だと思はれないやうな平凡なことが眞に道徳的な場合が決して少くない。眞の責任とは創造の責任である。この意味の責任を果した人のみ眞に道徳的な稱讃に價する人である。

□
汽車旅行の度毎に感ずることは、旅客が無爲に苦しんでゐることである。殊に夜行とか芋を洗ふやうに混み合ふ三等車とかいふなら兎に角、空いた晝の二等車などでも、

大抵な乗客が無爲に苦しんで飲んだり食つたり寝たり殆ど動物同様の生活しか出来ないといふことは洵に情ないことだ。それでも男子は、長い間にはたとひ新聞でも講談ものでも兎に角何か讀むが、婦人は、大抵新聞一つ讀まずに、物を食つてはいぎたなく寝るだけである。これに對して西洋人は流石に床しい。男子は勿論、婦人でもパンフレットの一冊も持たないものは殆どない。若しも讀書をしなければ必ず編物か何かやつてゐる。私は個人のためにも國家のためにも、我が國民が汽車や汽船の生活をもつと有意義に過すやうになることを望んで止まない。

民衆藝術とか藝術の民衆化とかいふことが眞面目に叫ばれるやうになつたのはよいことであるがこの叫びを徹底さす上に決して看却するとの出来ないのは芝居である。そして芝居の改造をはかる上に最も大切なことは觀客の教育である。今日の觀客殊に地方の觀客のやうに低級俗悪では民衆演劇とか演劇の民衆化とかいふとは却つて芝居

の墮落を増す所以である。私は在來のまゝの芝居なら少年少女などには寧ろ觀せたくない。この點から見て、私は國民文藝研究會が幼少者の觀覽禁止の決議をしたこと、東京青年歌舞伎俳優の一部が少年演劇團を組織したとを意味深く思ふものである。

□
作家でない限り、鑑賞が藝術に接する唯一最高の途である。そして鑑賞は只所謂無關心即ち三昧に入つた時にのみ眞に藝術的となる。この意味で、私は藝術に接しながら無關心で鑑賞することの出来ない人を不幸の人だと思つてゐる。この意味で、私は展覽會の批評家や審査員殊にろくなことも判りもしないで鉛筆を嘗め廻してゐる女學生や、芝居で「□△屋！」とか「○代目！」とかと怒鳴り散らしてゐる所謂「大向う」をあはれな人だと思つてゐる。

□
大きい子と守とを連れて寶塚の少女歌劇を聞きに行つて私は失望した。回を重ねる

毎に「少女」歌劇の名にふさはしくなくなつて來てゐるのに加へて、觀聽者の大部分が大人殊に血氣盛りの男子だつたからである。

或る米國の貴賓が横濱に上陸した際に、出迎へた我が當局は畧装をしてゐるのに米賓は禮装してゐたとのこと、そして我が當局が「米國はデモクラティックの國だからお客達も畧装して來るだらうと思つて」といふと、米賓はまた「日本は禮儀を重んずる國だから禮装して來た」といつたとか。この新聞記事を見て私は笑つてすましてはゐられないやうな嚴肅な氣分になるのであつた。

「受けるものよりも與へるものは幸なり」といふ言葉があるが、たしかに眞理である、併し、不純な動機から與へるものは必ずしも幸福ではない。與へることによつて眞の幸福を享受しようとするものは、何よりも先づその動機を純にして、感謝や報酬などを

を求めないやうにしなければならぬ。この意味で、私は匿名の寄附者などに敬意を表するものである。

電車中のことであつた。或る一人の手荷物を持つた男が出口に近い所でかなり興奮して他の一人に話しかけてゐた。聞けば、その人が他の一人に席を譲つてやつた所が、何時までもその儘で自分に譲り返さないことを怒つてゐるらしかつた。——女だと思つたから自分が荷物を持つてるにも係らず席を譲つてやると二人で腰を掛けた切りいつまで経つても平氣である。あゝいふ圖々しいことは印半纏などを着てゐるものには決してしない。立派な身なりなどをしてゐるものに却つて多い。……こんなことをかなり大きな聲でしゃべりながらジロリと並んで腰を掛けてゐる夫婦者を白眼んだ。私は見てはならないものを見たやうな心で反對の出入口の方に向つて足を運んだ。

残忍極つた少女殺が最近東京で行はれた。幸にして犯人が間もなくつかまつたが、それは近所の人達の密告の結果ださうである。私は近所の人達が犯人檢舉に力を盡したことはたしかによいことだと思つてゐるが、この惨事を未然に防ぐやうにしなかつたことを思ふと遺憾に堪へない。最も遺憾なのは、殘殺された少女の受持教師や校長などがこの惨事を未然に防ぐことに殆ど何等の努力をも致してゐないといふことである。それと共に、殺されないだけで死にもまさる不幸な境遇に泣いてゐる少女がどれ程多いかを思ふと、慄然として恐れざるを得ない。警察なども、單に消極的な仕事のみで囚はれないでもつと積極的な方面にも力を注いで欲しいものである。

或る人が洋式宴会の席上で頻りに人間を愛すべきことを説いてゐた。論旨の徹つた話であつた。けれども、その時は食堂閉鎖の定時を過ぎてゐたために、多數のボーイや料理人などが少からぬ迷惑を感じてゐたことに思ひ至つた時に、私は折角の演説が滅

茶々々になつたやうに感じられて口惜しかつた。

優強者が劣弱者を愛するよりも、劣強者が優強者を愛することが一層容易なやうである。或る人が眞に人を愛してゐるか否かを知らうとするならばその人の劣弱者に對する態度を見るのが一番よいやうである。

兩三日の間一方ならず心配した三男の病氣も漸く快方に向て來た。涙が流れる程嬉しい。遠雷の音が幾度も聞えた後で雨が降つて來た。刻一刻と涼氣が加はつて來る。私の心は今秋水のやうに澄み春海のやうに和んでゐる。久しぶりで今宵は安眠が出来るであらう。吁それにして思ひ出されるのは永しへに眠つた骨肉や縁者のことである。

最近の出來事の中で最も強く私の胸を打つたものは、「新高」遭難事件である。二百

の同胞が一擧にして生命を失つたといふことは、たとひそれが如何なる原因によることであるにもせよ、斷じて輕視することの出来ない大問題である。當局は宜しくその原因を精査して、斯くの如き悲惨事を永久に根絶するやうにしなければならぬ。

この悲しい出來事の中にも嬉しいことは、天佑にして生命を得た機關兵たちが、死に面接しながらも、上官にして重傷を負ふた兵曹長を看護し、救濟される時も第一に兵曹長を差し出したとか、岡田二等水兵が人事不省となつて沿岸に打ち揚げられ、介抱の結果正氣づいた際、介抱者が「岡田しつかりせよ」と叫ぶと、氏は「岡田こゝにあり艦長は何處にありや」と答へたとか、遭難者の家族達が大抵立派な態度を示したとか、或は嘗て逃亡中の新高乗組員が同胞遭難の報を知ると同時に自首したとかいふやうな美くしい事象が、この悲惨事に伴つて起つたことである。

□
遭難といへば、最近登山者の遭難が頗に殖えたことは遺憾なことである。現に私の

大屋の次男の陸軍中尉の人も日本アルプス探險の途中行衛不明になつた儘今日に及んでゐる。登山もよい、冒険もよい。併し、本當の道徳的勇氣や本當の創造的冒険心は必ずしも登山によつて養はれるものとは限らない。私は、最近の登山熱は幾分度に過ぎるさらひがないかを疑ふものである。私は登山のために難に遭つた人々に對しては只只心から氣の毒に思ふだけである。

□
樺太から東京まで徒歩で駆け通した人々がある。この事を新聞紙で知つた時に、私は、これらの人々に對して聊かも讚美の情が起らなかつた。只この爲すべき事の無限に多い時代に於て、こんなことを職業としなければならぬ人々を衷心氣の毒に思つただけである。

□
八月中旬の一日、私は東北の或る停車場から一番列車に乗つた。發車すると間もな

くけた、ましい汽笛の音と共に列車が急に停つて仕舞つた。はじめの中は大して氣にもかけずに読みさしの獨逸書に読み耽つてゐたが、何時までも發車しないのに加へて人聲がかなりに喧しいので、窓から顔を出して見たら、私の前の客車の端の下邊に見るも無慘な女の轢死體が横たはつてゐた。乗務員は其の死體の側で心配さうな顔付で話し合つてゐたが、間もなく驛から驛長らしい人が來て死體を調べた後で、「これは自殺で、そして轢いたのはこの列車でない、この前のかそれともその前のかも知れない」と叫んだ。これを聞いた乗務員達が異口同音に「この列車でない！ この列車でない！」と如何にも嬉しさに絶叫して車に乗つた。間もなく汽笛と共に列車は動いた。私は死者を憐れむよりも先づ自分の責任の有無を考へなくてはならない乗務員たちに同情しながら、憐れな轢死者の不幸に對して謹んで弔意を表した。

或る夕方、満員電車で歸る時のこと、飯田橋で車掌や警官の止めるのも聞かずに四

五人ぶら下つて乗つた。と車が物の半丁も走つたかと思ふと急に停つた。人聲がするので窓から覗いて見たら監督が頻に叫んでゐた。——「今警官が車の番號を書き止めてゐたから後で車掌が小言をいわれます。車掌がかあいさうだと思つたらどうぞ中につめて上に上つて下さい。」と甲高い聲で三四度かういつてゐる中に、流石強情の乗客も中へ／＼とつめたので、ぶら下つてゐた連中も車掌臺に上ることが出來た。車中は蒸し返される程暑苦しかつたにも係らず、私は何となしに愉快な氣分で江戸川まで乗りつづけることが出來た。

長らく紛擾をつづけてゐた第三高等學校問題も校長の交迭で一片ついた。學生は校長の交迭と共に祝賀會を開いたとのことであるが、若しもそれが本當であるならば、洵に苦々しいことである。校長排斥運動は高等學校程度の學校では時としては是認を餘儀なくさせられることもないではないが、苟くも一旦恩師として敬仕した人の去るの

に對してわざわざ祝賀會を開くといふことは、人情や道義を解しない態度である。

□

汽車旅行中で不快なことの一つは「檢札」である。自分も不正を行ふ可能性を有する者の一人と見られてゐるからである。檢札者は乗客中に不正者が皆無であることを希ふよりも寧ろ不正者があつてを希ふらしいことが察知されるからである。檢札によつて不正者があつてことが判れば、それらの不正者と同席したりそれらの不正者に必要のない禮儀をつくりしたりしたことが馬鹿らしく思はれるし、不正者がないことが判れば、乗客一同罪人扱されたこと、無意義な手数を費したことが憤ろしくも間拔らしくも思はれるからである。併し、これも畢竟乗客中に不正なことをするものがあるためであることに想ひ及ぶと、私は更に一層暗い心持になる。東北線や片田舎などに行くと、無知のために不正なことをする乗客も少くない。併し、確に車室を間違へてゐるなと思つても、明らさまにさういふことも出來ずに席を譲つてやつたりするやう

な場合が、方々汽車旅行をしてゐる中にはかなり多いが、決してよい心持がしない。質朴な田舎人が子供などを連れて乗込み、やつと腰を落ちつけて煙草一ぶくも吸ふ時分にそれし氣がつき、周章して荷物などをかへて室を出て行く様子を見ると、何んとはなしに涙ぐましい氣分になる。——吁、何時になつたら誰も彼も平等に愉快な汽車旅行が出来るやうになるであらうか。

□

最近東北線上り列車中の事。列車が赤羽に近づいた頃車掌が檢札をした。不幸にして不正者が一人發見された。併し、その人は私が乗つた時から（恐らくその前から）その時まで約二時間ばかり横臥しつゝけた人であり、どうやら酒に酔つてゐるらしかつた。それを長い間に一度も注意せず、態々終點に近づいた頃に檢札して、「無斷乗車ですから貨銀の二倍頂戴します」といつて金を請取つて行つた車掌に對して私は到底好感を持つことが出來なかつた。

「旅は道連」といふが、私は何れかといへば旅の道連はきらひな方である。自由を求めてゐるからである。殊に宿屋などはどんな仲のよい人とても同宿するのはきらひである。お客に行つてあんまり大事にされるのも同様である。遊覧や観劇などでも一人でする方が好ましい。只酒だけは相手がないと寂しい。

或る初秋の一日研屋が家の前を通つたので一丁の剃刀を研がすやうに家人に頼んだ。二時間許過ぎても持つて来ないので、研屋が研いでゐるといつた場所を見せにやると研屋の姿が見えないのに加へて、その研屋がはじめて来た人なので、悪く邪推していろ／＼と蔭口を利いてゐると、やがてその研屋がきれいに研いだ剃刀を持つて来た。——私はいはうやうのない羞恥を感じた。

研屋で思ひ出したが、何時も刃物を研いでもらう研屋兼洋傘直しはこの頃洋傘直しを専門としてふれて歩くやうになつた。研屋では勿論活計に困るためであらうが、洋傘直しを専門にして果してどれ程の増収があるだらうか。研屋の時代には僅かな用でも頼むことが出来たのに、洋傘直しになつてからは殆ど頼む用がなくなつたので何となしに氣の毒に感じられてならない。

今年は九月の半頃になると急に涼氣だつて来た。薄物や浴衣から一足飛にネルやセルや袷に着更へなければならぬ程氣候の變り方が急激であつたので、只さへ強く感じられる秋のあはれが一層深く心に染み亘つた。殊に、夏中愛用した煽風器や扇や薄物や座蒲團やなどが瞬く中に不用に歸して仕舞ふのを見るのはかなり寂しいことであつた。

或る時私の小さい子が繪本を見ながら、後の方に救助網の付いてゐる電車があると
いふから、後方についてゐる網は折られてゐると教へると、どうしても納得しないでと
う／＼とこり出し、持つてゐた繪本でバタ／＼私を叩いた。私はその儘にして置くと、
その夜自分で前のと別な繪本を持つて来て救助網は前についてゐて後についてゐる時
には疊まれてゐることを話した。その後電車の繪を見る度にこのとを繰り返した。前に
反抗したことを自分で悪いと悟つた結果かうするらしいが、大人のやうに「悪かつた」
とか「すまなかつた」とか形式的の詫言がいへないだけ餘計にいぢらしく感じられた。

犬殺しがやつて來た。所々で犬の悲鳴が聞えた。二匹の犬が私の小庭をうろつて
てゐた。私はそれを見聞きするたびに不快な思をした。犬の性質が悪いために殺され
るのではなくて飼主がないために殺されるからである。野犬として虐待して置いた上
に撲殺するからである。飼主を持つか持たぬかといふことは彼等の禍福——生死を別

つ絶對的標準となるからである。——翌朝、私の知つてゐる野良犬が殺されずにうろ
ついてゐるのを見た時に、私ははじめてほつと安心をした。

秋は酣である。高臺の夜は静かである。讀書の時、思索の時。併し、故山に病兄を
持つ私の心はしかすがに寂しい。

又帝展の時が來た。私は單に帝展だけでなしに、凡て審査とか試験とかの關門を經
たものを見聞する時には、いつも悲痛な感激を覺えぬことはない。目出度關門を通過
したもののさへも、多くはそのために人に語りつくせぬ惡戰苦闘をしてゐるし、況んや
落選や落第の憂目を見たもの、失望や悲哀には、到底他人の推察を絶するものが少く
ないからである。それよりも一層私の心を闇くするのは、審査や試験の上にいる／＼な
情實があつたり種々な缺陷があることを十分に知りながら、それらを利用しなければ

自己の價値を發揮することが出来ない人達の境遇と、出品をしたり受験をしたりする人達の心持とである。數百點の作品の鑑別が半日や一日で済むといふことも私の胸を痛める。觀覽者の輕薄な觀覽振も憤慨の種である。骨董屋らしいものが物欲しさうな眼でうるついてゐるのも氣になる。醜惡な動機から競つて買約をするものが少くないのもおぞましい。併し、何よりも悲しいことは、私自身が入選中の最も拙劣な作品をさへも創作し得ないのは勿論、評價鑑賞し切ることさへも出来ないことである。——私には只敬虔な謙遜な心持と態度とで作品を見て廻る他には途がない。

ひとり繪畫や彫刻ばかりではない。音樂も舞踊も、否々、電車の運轉も足袋の仕立もペン先の製造も剃刀の使方も、何一つとして私はそれらの専門家の最下等者にすら遙に及ばない。而もそれらは皆私の生活にとつて必要なものである。——一藝の士は尊ぶべし、存在は價値である。私の心は自づと謙抑に敬虔にならざるを得ない。

□

今年も亦東京は惡疫流行の巷と化した。惡疫の流行するのは野蠻の證據であると西洋人がいつてゐるさうであるが、これはたしかに一味の眞實を道破してゐる。惡疫の流行を未然に防ぐにも、流行した惡疫を出来るだけ速に撲滅するにも、學問を活用することゝ一般人の道德心を高めることゝが必要だからである。この點から見れば、今日の我が國では勇氣とか公德心とかいふことを新しい意味で重大視する必要がある。

惡疫流行のために魚商をはじめ氣の毒な人が續出するが、この間に於て、人の不幸を我が幸福として暴利を貪らうとする奸商などが輩出するのは最も遺憾なことである。

□

「醫は仁術」といふことばは今日に於ては全く死語となつてゐるが、私は何處までもこの言葉を生かしたい。凡そ如何なる職業にたづさはる人々にも高い人格が必要であ

るが、とりわけ醫者は高い人格者でなくてはならない。人間にとつて最も尊い生命の支配者であるのはいふまでもなく、親兄弟にさへも告げ得ない秘密すらも打明けられるやうなことも少くないからである。否、たとひそれ程でなくとも、醫者の僅かな聰明や親切が非常に大きな効果を病氣に及ぼすのと反対に、僅かな不聰明と不親切とが病氣を重らすやうな場合が少くないからである。この意味に於て私は、醫者の修養の上にも教育の上にも道德的方面人格的方面が特に重大視されるやうになることを要求して止まない。

私は最近兄の病氣を見舞つたり、自ら親しく一週間病院通ひをしたりした結果、しみじみと以上のことを痛感した。併し、これと共に私は、一生涯断えず病者を相手にし、断えずきたないものを取扱つてゐる醫者や看護婦たちに對して心から感謝と同情とを覺えずにはゐられなかつた。事實、私は手當をして呉れる醫者は勿論助手をする看護婦に對してもいつも心からの謝意を表して手術室を出た。

□

或る日上野山下で動坂行の電車に乗り換へた時、目の醒めるやうな盛装をした若い婦人が車の側を通つた。と、次の刹那にその人が跛であることを見出した。人だからのする所としてその婦人を凝視してゐるものがかなりに多かつた。私は暗い心持にならざるを得なかつた。盛装したために自分の片輪なことを態々人に廣告するやうな結果になることを知らずに、又は知つてゐながら、盛装してゐる婦人の心を推察したからである。そしてこの感じは、目の悪いのをかくすために色眼鏡をかける人や、禿頭をかくすために他人が帽子を脱いでゐる場合にも冠つてゐたりする人などを見た場合にいつも經驗するところのものである。

□

「運動のシーズンが来た！」この言葉はよく聞く言葉であるが、私はいつも反感なしには聞くことが出来ない。勿論これはひとりこの言葉だけでなく、「讀書の候」といふや

うな言葉に對しても同様に感ずることであるが、最近世人殊に教育者の運動に對する態度を想ふ時に於て、特にこの言葉に對して強い反感を感ずるものである。運動があまりによそ行となり、あまりに興行的となり、あまりにお祭騒となり、餘りに見物本位となつてゐるのが最近の状態だからである。殊にこれが運動會に於て甚だしい。私は運動會といふものに對して反感——少くとも真面目な疑問を懷いてゐる。勿論運動會の効果はある。併し、少からぬ弊害の伴隨することは否むべからざる事實ではないか。私は寧ろ運動會の廢止をさへ絶叫したい。少くとも小學校の運動會をして眞に教育的なものとするには、もつとく地味にしなくてはならないと思ふものである。他の教育的努力を犠牲にして一ヶ月も二ヶ月も特別な稽古を強行するばかりか、運動會の翌日休業するといふが如きは沙汰の限りである。

世間では今日體育が非常に進歩してゐるやうに思つてゐるものも少くないが、體育程遅れてゐるものはない。運動會や競技會の盛んなことは決して體育そのものが進歩

したことはない。運動會や競技會に現れるものは主として體育の花や飾だからである。特別の機械や道具や設備や服装やを用ゐなければ出來ないやうな運動は本當に價値ある運動ではないからである。

私は「運動家」といふものを「宗教家」といふものと同様に輕蔑してゐる。但し、優れた運動家は「藝人」としては尊重してゐる。

□

一時問題になつた専科教員といふものはたしかに教育界の難物である。殊に體操科や唱歌科の専科教員は教育上害毒を流すことが少くない。體操科や唱歌科を不當に過重し無暗にむづかしいものを教へたり、運動會や音樂會をよそ行のものにしたり、自己の擔任學科が全校に亘るために不當に威張り散らしたりする點に於て。私は今日のやうな専科教員制は將來廢さるべきものと思つてゐる。將來の専科教員は、普通の正教員の資格を具へたもののみ附與さるべきものであると思ふ。師範學校卒業者や正

教員が専攻科に入るとか、特別の選科の検定を受けるとかして得る名譽ある資格でなくてはならない。随つて、専科訓導は待遇も地位も普通の訓導より上位にあるのが當然である。只一科に秀でてゐるといふだけで、普通の教育家としての資格をも具へてゐないものが全校の或る教科の主任になるから非教育的な結果が生ずるのである。この意味に於て、私は、専科訓導諸君が一方で一般的修養に努めることを要望すると共に、専科訓導制が改正されるやうになることを希つて止まない。

□

生物を飼ふといふことがどんなに厄介なものであるかといふことを私は金魚を飼ふことによつてしみじみとさつた。百日の間、私たちは小さな生物のために一日として心を安んずることが出来なかつた。それにもかゝはず、數尾の可憐な小魚に死なれた。そしてその度毎に小さな死骸を近所の小川に流してやつた。やがて秋が來た。金魚鉢には二尾だけ残つた。而も二尾共弱つてゐた。私は家人の申出を快諾して二尾共小川

に放して金魚を飼ふのを止した。そしてはじめてホツとした。一番小さな子供まで、「あの金魚は來年までに大きくなるだらう」といつて欣んだ。家族一同皆この可憐な希望に同意した。

□

或る友人の令妹の葬儀のある日であつた。私は數日前から毎日通つてゐる神田の病院の方を先にして歸途式に列らうと思ひ、禮装で早朝家を出た。豫定では、療治を受けてからでも十分十時の式に間に合ふつもりであつたが、當日は院長の診察日のために患者が非常に多く、私の治療が濟んだ時には十一時間近の頃であつた。病院を出て電車に乗ると、暫らく私は式に行かうか行くまいかといふことについて迷つてゐたが、思ひ切つて飯田町で乗り換へ、肴町で下車し、交番でお寺の所在地をたづねて漸く十一時二十分頃式場についた。勿論式は濟んで會葬者は三四人門口で歸り仕度をしてゐた外は皆歸つた後だつた。幸喪主がゐられたのでさつと事情を話して焼香をすました。

——寺を辭する時の私の心は、勿論哀愁を感じてゐたが平安であつた。只遅參の申譯をしたことは幾分遺憾に思つてゐたが。

□

匆忙の一夜を割いてバヴロワ夫人一座のダンスを帝劇で觀た。私は勿論その巧妙な舞踊振に感激した。それと共に無言舞踊の意味を表現する上に音樂の力の如何に多大であるかを今更の如く感歎した。併し、舞踊のプログラムが進むに従つて次第に苦痛の加はるのを覺えて來た。無言舞踊が不自然であることを感じたからである。踊り手が一言半句も發聲せずに踊ることは決して人間の本性に合致したことはない。踊れば必ず歌はんとし、歌へば必ず踊らんとするのが人間の本性である。この意味で、私は歌劇が舞踊として最も進んだものであると思ふ。それから、バヴロワ夫人をはじめこの一座の得意なトリー・ダンスもぐるぐ廻りも思ひ切つてバタッ、と床の上に倒れることも、一味の苦痛感を覺えずに觀てゐることが出來なかつた。三四回に亘る觀客の

アンコールも私には不快なことの一つであつた。——結局私は幾分の失望を感じて劇場を出た。

尙この晩不快を感じたことがも一つある。それは開場前四等の切符賣場の前に長蛇のやうに列んで待つてゐた觀客を見て、一二等入口の二人の下足番だちが「やア今夜も半分は追ひ歸されるぞ！」と如何にも嘲笑的な句調で聞えよがしに語り合つてゐたことである。私は、「君たちは誰のために生活費を得てゐるか」と怒鳴りたかつた。更に、「本當に藝術を愛好するものが特一二等の客か、三四等の客か」と怒鳴りたかつた。更に、「君達に最も親しいものは特一二等の客か三四等の客か」と怒鳴りたかつた。

□

バヴロワ夫人をはじめ、一座の踊子たちが、演技の餘暇に日本のおどりを稽古したといふことは感ずべきことである。而もその稽古振が火の出る程の熱心であつたとい

ふに至つては益々床しい感じがする。兎角一流に秀でると自惚が強く、他人の教へを乞ふといふやうなことは出来ないのが常だからである。併し、これはひとりバツロワ夫人だけの長所ではなくて、我が國の優れた俳優などの共通長所のやうである。一流の俳優が型物や古い役などを新しく手がける時には、その役に長じたものや故實を知つたものについて熱心に稽古をするなどいふことは殆ど習慣になつてゐることである。この點から見ると、斷えず「自由」とか「進歩」とかと繰り返してゐる學者や思想家などの中に、所謂「藝人」と蔑すんでゐる人々よりはるかに劣つた心事態度の持主の少くないのは遺憾なことである。

□

書物の標題といふものは中々つけ憎いものであるが、自分が長い間著述家として苦心した心持で他人の著書を見ると、標題のつけやうで其の著者や出版者の人となりか幾分わかるやうな氣がする。賣行や評判のよい書名を真似るやうな著書には大抵よい

ものがない。内容が獨自にして優秀なものであれば書名も亦獨得なものであるべき筈だからである。それはさうとして、最近の著書の標題の中で不快を感じたものゝ一つは『校長學』といふのである。校長論といはずに態々校長學としたところに不純な要素が介在してゐるからである。

□

その度毎に齒がゆく思ふことは、電車や汽車が故障で不時の停車をした場合に車掌や運轉手が一口もその理由を乗客に話して呉れないこと、新聞配達が朝に配達すべきものを夕方配達したり夕方配達すべきものを翌朝配達したりする場合に一言「済みませんでした」と斷つて呉れないことである。

□

今年もまた秋祭りの時となつた。「節約」の聲のやかましい時に多大な寄附を募つて新しい神輿をこしらへてお祭騒ぎをしてゐるところも少くないが、情ないことだ。殊

に、相當に教育のありさうな青年までが神輿をかついでワッシ・イ／＼やつてゐるのは何といふことであらう。女學校や小學校に出てゐる自分の娘達を手古舞姿でお祭に出してお祭の改善をはかつたなどと自惚れてゐるものが多い中は、到底生活改善の徹底を見ることが出来ない。

池上本門寺では今年のお會式に大きな萬燈を用ゐないやうにしたといふことだが、今年だけでなく永久に廢して欲しいものである。

□

アインシュタイン博士の來朝はたしかに我が國近來の重大事件である。ゐながらにしてこの碩學の風采にまのあたり接し得るものは幸福である。私どもは何よりも先づ、私共に幸福を與へて呉れるやうに盡力した人々に感謝しなくてはならない。これは勿論ひとりアインシュタイン博士の場合ばかりではない。

私は博士の學者としての眞價を十分に評價するだけの専門的力量を持つてゐないから、この點に關しては一言も挿むことを得ないが、博士の人格に對しては心から敬意を表せずにはゐられない。數學者とか理學者とかいふやうな科學者にはえて人格の低劣なものが多いが、博士は全く學徳兼備の眞學者らしいのはうれしいことである。ヴァイオリンの妙手であるのも床しい。藝術に深い理會を持つてゐられるのも慕はしい。夫人を伴はれたのも懐しい。日本の待遇がよすぎるといはれたことや、晴の觀菊會で古い禮裝の借着のまゝ平然としてゐられたことなどは更に／＼美はしい。よしんば博士の學說が不幸にも我が國民に一向理會されずにしまつたとしても、博士の來朝が我が國に與へる貢獻は甚大である。この意味で、私は心から博士に感謝の意を表すると共にその健康を祈るものである。

それにつけても遺憾に感ずるのは我が國の學者たちの人格や生活である。殊に私の最も遺憾に思ふのは、彼等の人格や生活に本當の意味に於ける「人間味」の稀薄なことである。人情も解せず、藝術も知らず、涙も笑もなく、徒に圖書堆理に冷たく固ま

つてゐる人達を想見すると衷心同情に堪へない。勿論學者の本分は研究にある。眞理の創造にある。併し、本當の研究や本當に價值ある眞理の創造は、只高い意味に於ける「愛」を持つた人によつてのみ成し遂げられる。そして「愛」のある人の人格や生活には必ず温みがある。本當の人間味とはこの愛の力の發動に他ならないかぎり、これを缺くものは本當の學者といふことは出來ない。事實眞に偉大な學者は大抵偉大な「人間」であつた。

□

或る舶來玩具の披露會に招かれた時に、私は今更ながら自分の玩具に關する思想の曖昧なのに驚かされた。併し、これは私一人ばかりでなく、會の當事者や専門の理學者なども略同様のやうに見えた。少くとも「玩具と學用品との異同關係」といふことについては何人も明快な説明をして呉れなかつた。

私は玩具は子供の遊戲用具だと思つてゐる。この意味で、玩具の備ふべき條件は、

子供の創造性の發動を最も自由ならしめること、即ち使用法の簡便なこと、動的の快樂を與へること、に盡きると思つてゐる。随つて、大人の助力を俟つたり、異常な思索や工夫を要するものは、玩具として優良なものではない。同様に價の餘りに高價なものも玩具に適しない。世の中では、寧ろ修繕し難いことを非難するものも少くないが、私は必ずしもこれに賛成することは出來ない。私は寧ろ修繕し難いことを非難するものである。子供が自由に且容易にこはす（こはれるのではない）ことが出來ると共に、また自由に且容易に修繕することが出來るといふことを以て、優良な玩具の一つの資格と見たいと思ふものである。この意味で私はブリキの玩具よりも木の玩具を欣び、機械やからくりの見えないものよりも見えるものを好むものである。同様の意味で、改造や應用が自由であると共にその範圍が廣いもの、即ち子供が遊びながら思ふ存分に自分の性能の發動と發達とをはかることが出來るものをよい玩具と見るものである。積木や折紙が玩具として價值があるのはこれがためである。

玩具の改良は洵によい。併し、そのためには玩具に關する根本問題を解決してかゝらなくてはならない。よい玩具を輸入することはよい。併し、それと共に現に使用されてゐる日本本來の玩具乃至現在の玩具を改良して欲しいものである。

玩具で想ひ出したが、先日私は四歳の男の子から「ボール返し」の出来る電車のおもちやを買つて呉れと頼まれたので三四軒の玩具店を捜したが、電車の玩具が澤山あるにも係らず子供の要求に合致するものが一つもなくて悲觀したことがある。小さな子供自身で自由に使用し得る鐵砲などのないことも悲哀の種である。

十一月十五日即ち俗にいふ「七五三」の日に私は神田明神の前を通つて見て少からぬ驚駭を覺えた。黒山のやうな門前の見物の中を、今日を晴と着飾つた子供や親たちが織るが如く往き來してゐたからである。併し、こゝに集つて來る親たちの心事や、子供の柔い心に與へる影響や、見物人などの味はふ感想やに想ひ到る時に、私は只驚駭

のみに止つてゐることが出来ないことを痛感せずにはゐられなかつた。

前途有望の定評があつた某文科大學生が養父母を慘殺して自殺を遂げた。本來感情的な私は、この新聞記事を見て今更のやうに天性の根強さと人生の果敢なさに驚歎した。或る一高生が突然發狂して電柱にかけ登つた記事を見ても、單にひと事とのみは思へなかつた。突然大病に襲はれた骨肉や友人、突然家族を喪つた知己、これらのことを思ふと、私はいはうやうのない不安と寂寥とに襲はれる。

「不具な子程可愛い」とはよくいふことであるが、病に苦しむ小さな我が子程いぢらしいものはない。最近四つの子が一ヶ月近くも病魔の擒になつてゐるが、只すやくと安眠した姿を見たゞけで熱い歡喜の涙を流したことが幾度あつたか知れない。幾分快方に近づき、久し振で粥を食べた時の家中の欣び、爪でひつかへれ、手で打たれ、

拗ねられ、泣かれても、誰一人として腹を立てるものなく、一家協力殆ど寢食を忘れて看病する真剣さ。思へばいたましくも尊い経験である。それにしても病弱な子女を持つた親程不幸なものはない。子供を病弱にした親程憐れなものはない。

「泣く子と地頭には勝たれぬ」とはよく云つたものである。この頃、生みの親たる私達が、あらゆる熱誠とあらゆる聰明とを以てまる一日間費しても僅一服の粉薬を服ますることが出来なかつたり、一家を擧げて全力を盡しても僅五分間の體温を計ることが出来なかつたりすることが決して少くないが、その度毎にいつもこの言葉が想ひ出されると共に、我が子にして我が子にあらぬ幼き者の自我の獨立と尊嚴とに對して、強い欣びと悲しみとをかたみと感ぜずにはゐられない。

或る夜半病兒の體温が六度以下に降つたので、驚いて私達夫婦共に自分の體温を計つて見た所が、病兒のと同じであつたので初めて幾分安心した。それにしても、これ迄の半生中自分の體温を知らずにゐた間拔さをしみくくと恥ぢずにはゐられなかつた。

□

利己的な點では老人と子供とが甚だしく似通つてゐる。私の近所に子供の遊び場になつてゐる廣場があるが、そこに殆ど毎日のやうに弓を引きに来る七十近い老人がゐる。私は彼が射的をするためにどれ程多くの子供達の邪魔になつてゐるかを一向知らずに毎日へたな弓を引いてゐるのを見るたびにかなり強い憤りを感じて、別な場所で弓を引くやうに忠告したいとさへ考へることが度々であるが、それ程無中になつて喜んでゐる老人の心中を察すると、さうもいひ兼ねて、いつも子供たちに怪我がないやうにと祈つて去るのが常である。

□

最近汽車や電車の樁事が頻發するのは勿論非常に悲しいことであるが、私はいつも故障の少いことを驚嘆してゐるものである。自分一個の心身や道具や家族生活などで衝突とか轉覆とか破損とか脱線とかいふやうなことが全然ないといふ日は殆ど一日も

ないからである。

□
もう冬だ。冬になると田舎が懐かしまれる。冬は思ひ切つて思静寂だからである。冬は思ひ切つて静寂だからである。

□
宗教の極致は自己を神と見る所にある。そして神とは創造性を理想化絶對化したもの即ち最も卓越した創造者であるかぎり、自己を神と見ることはとりも直さず自己の創造性を理想化絶對化して見ることに他ならない。ところで、創造性の理想化絶對化は、創造性の全的活動を他にしては不可能であるから、自己を神と見ることに偶像崇拜とか傳統固執とか過去讚美とかいふことは全然矛盾する。——親鸞がかつぎ廻され、日蓮が大師となつたりしたことを見て、直ちに今日の我が國民が本當に宗教的になつたと思ふものがあるならば、それは全然宗教を知らないものである。

□
或る雑誌社から「正月の傳統的行事中で残したいと思ふことが何か」といふやうな問を受けて私は今更のやうに驚いた。心から是非残したいと思ふことは一つもなかつたからである。三十六年間楽しいこと價値あること、信じて毎年繰り返して来た「新年」の行事なるものが、眞面目に考へれば實は一つとして眞に受惜尊重すべきものではなかつたことをはじめてさつたからである。單に自分だけではなく、數百年の間又千餘年の間、無數の人達が毎年同じやうなことを繰り返して飽かずに来た傳統の強さと、創造性の弱さとをかたみに感じたからである。

□
不景氣の結果各方面に犠牲者が續出しつゝある。殊に海軍や實業の方面などに於て激しいやうである。去年の正月と今年の正月とで雲泥の差を見る家庭も少くないことだらうが洵に氣の毒なことである。併し、これは大傘の下に雨宿りをするものや他人

の賽銭で鰹口をたたくもの即ち所謂「宮仕へ」するもの又は「勤め人」の共通運命で、殆ど何人にも免れ難いことである。私はこの運命がきらひである。この運命を免れるために苦勞する^中のがきらひである。この運命を免れるために苦勞する結果人格や品性が傷つけられることを恐れるのである。私には所謂「勤め人根性」といふもの程いやなものはない。上に諛ひ下に阿ねる心、形式や表面だけを調へる心、上級者の不在や日曜休日を喜ぶ心、先輩や同僚を排擠する心、給料殊に賞與や手當を受取る時の心、轉任轉勤に對する心……思ふだけでも胸がふさがるやうな重苦しい感じがする。併し、この苦しみを感ぜながら是が非でもその境遇に甘んじなければならぬ人達が無數にあることを思ふ時に、私の心は一層強い惱みを覚える。

□

最近時々未知の人から著書を呉れといつて來るが、さういふ手紙程馬鹿に丁寧な言葉が用ゐられてゐる。私は勿論その要めに應じないが、兎に角不快な^中ことである。私

は、卑劣な點では強盜よりもすりや詐偽を憎むと同じ心でかういふ人たちの心事を惡むものである。——最近貴婦人を裝つて數萬圓の詐偽を働いた女があるが、それが女であるだけ一層憎らしい。汽車の不正乗客に女が多いといふことも悲しいことの一つである。

□

「時は金」といふ言葉はいやな言葉であるが、この言葉の意味は首肯することが出来る。今日に於ては、時を愛惜するか否か、時を活用するか否かが、價值生活の少くとも一指標であるといつてもさしつかひがない。併し、事實に於ては眞に時間を愛惜し活用するものが甚だ少い。かなり長い汽車や電車の中、停車場や停留所や銀行や劇場や各種の會合やで待つてゐる間など、何もせずに時間を空費してゐる人達を見ると、私は一體何千年^中生きるつもりかと聞きたくさへなる。

時を愛惜し活用するものにとつて時計が必要なのは改めていふまでもあるまい。事

實、今日は時計が普く活用されてゐる。併し、今日では時計は實用品としてよりは寧ろ贅澤品として用ゐられる場合が多いではなからうか。少くとも婦人などにとつては贅澤品であり装身具である。これは必ずしも悪いことではないが、私は時計がもつと／＼實用的に活用されることを望むものである。多忙な仕事や時間に關係の深い生活をしてゐる人達にもつと／＼時計が活用されるやうになることを望むものである。即ち、學生は勿論女中や小僧なども携帯するやうになることを望むものである。ところで、今日ではこれらの人々が時計を持つてゐると生意氣だといつて非難するものも少くないが、これは洵に遺憾なことである。

□
時計は、實用的見地から見れば指針の正確を以て第一條件とすべきものであるが、大抵な時計は不正確である。而もそれは機械が悪いためや不注意なためではなくて、わざ／＼標準時と違はして置くのである。そして大抵は幾分か標準時より進まして置

くが、料理屋のやうな所では遅らして置くのが通例である。それから、指針の不正確な時計でも進むのは遅れるのよりもよいとされてゐる。私自身これまで置時計は二つ共十分位進めて置くのが習ひであつた。この頃私はふとしたことでこれに對してかなりに強烈な羞恥を感じて凡て標準時に合せることゝした。時計を進めて置くのは、それによつて遅刻を防ぐ僥倖にしたいといふ卑怯な狡猾な依他的な精神の發動だと悟つたからである。

□
私は銀側はきらひである。銀側よりは寧ろ鐵側やニッケル側の方が好きである。事實私は十數年來ニッケル側を愛用してゐる。それから男の腕輪は左程でもないが女の腕輪は嫌ひである。それよりも嫌ひなのは鎖が金製で時計が銀製や鐵製を用ゐることである。最も嫌ひなのはメツキの金時計や金鎖を用ゐることである。

無智程恐ろしいものはない。少くとも本當の愛は必ず聰明を伴ふものでなくてはならない。私は愛せんとする意志が強かつたにも係らず、無智であつたがために最愛の長子を喪つた。その悲哀と悔恨とが、何時も鮮かに胸奥に烙きついてゐる今日に於て、私は再びまた最愛の三男を長い間病魔の黒手に委ねたばかりか、かなりにも重態になるまで不完全な醫療と不十分な看護とで間に合してゐた。幸にして、手遅れにならない中に氣がついて入院させたためにはやく快方に向はせることが出来たが、もう四五日もぼんやりしてゐたらどうなるかわからなかつた。吁、無智程恐ろしいものはない。無智程恐ろしいものはない。

子供を欺く事程容易いことはないが、又これ程罪深く且これ程心苦しいことはない。而も私は子供の病中にどれだけ多くこの心苦しいことをしたであらうか。しとげねばならなかつたであらうか。——眞に人少くとも幼きものを愛し得るものは、聰明であ

ると共に強意でなくてはならない。

子に對する父親と母親との愛の様相が如何様に異なるかは、子が病んだ場合に於て最も明白に理會される。——滿四ヶ年に近い間殆ど一度も叱つたことがない程温い心で愛してゐた親の私が、大病に苦しみ惱んでゐる我が子に、直接的には何等の喜びをも慰めをも與へることが(母親や従妹などが出来るのに)出来ないといふのは、何といふ悲しみであらうか。私は妻や従妹が病院につめ切りにつめてゐる間に、一人宅に残つて間接的に我が子を愛する工夫を講ずる他に途がなかつた。そしてこのことに想ひ到る毎に熱い涙が止度もなく流れ出るのが常であつた。そして心の中ではいつもかう祈りかう叫んでゐた。——はやくなほつて呉れ！なほつたなら思ひ切つて愛してやらう！

病院に入つて見ると病人の多いのには驚かされる。そしてそれらの病人や看護者は

大抵皆私達同様深い悲哀や強い苦惱を持つたものであることを想ふと、息づまるやうに感じられてならなかつた。これまで鼻歌を歌つたり浮ついた考へを懐いたりして平氣で病院の前を通つてゐたことを想ふと、穴があらば這入りたいやうな深い羞恥を感じずにはゐられなかつた。

□

病院や醫院に行くものは皆心に悲哀と憂慮とを秘めてゐる。随つて病院や醫院にゐるものは、患者や附添人などに對する時には何よりも同情を以てしなくてはならぬ。それは愛を生命とする人間としての第一義的本務であるばかりでなく、それによつて生活をしてゐるといふ自己の職業に對する義務でもある。ところが、私の行つた病院などはこの點に關して甚だ不満なところが多かつた。最も心外に思つたのは受付の態度である。私に對しては何でもなかつたが、田舎から出て來た人や、診斷願を満足に書けないやうな人などに對しては、極めて冷淡なそして極めて傲岸な態度を取つ

てゐた。迷信の深い人達などは、恐らく單にそれだけで診察の「辻占が悪い」と感じ、さなきだに傷ついた心に紅血をにぢましてゐることだらうと、私は同情に堪へなかつた。併し、五六十歳にもなつて受付をしたり、受付でありながら下らないことに意張るのを樂しみにしたりしてゐる老受付子の境遇や人格を思ふと、これまた氣の毒でならなかつた。

反省と憧憬終

大正拾貳年五月十二日印刷
大正拾貳年五月十五日發行

反省と憧憬

正價金貳圓五拾錢

著者 稻毛詛風

發行者 坂本眞三
東京市神田區表神保町七番地

印刷者 吉田松次
東京市牛込區市谷加賀町一丁目十二番地

印刷所 株式會社 秀英舍第一工場
東京市牛込區市谷加賀町一丁目十二番地



不許複製

發行所

東京市神田區表神保町七番地
振替貯金口座東京八七貳番

大同館書店

◇ 稻毛詛風氏新著 ◇ (教育者隨一の修養書)

新刊 理想の教育者

四六判 最上製
全一冊 五百頁
正金 貳圓
送料 十二錢

今古未嘗有の改造期に際會して速に解決すべき教育上の重大問題頗る多きを加へたが而も問題中の問題は正しく「教育者問題」であるからである。著者は夙に教育者の優劣に依るべきか、我が教育者の大半は今や懷疑と換憫との擧となりつゝあるからである。本書は所長知五十篇を重視するに對し、著者の生活改造に對して常に切々徳々の情懷を致してゐる。本書は教育者として眞に意義ある生活に生き眞に理想の教育者たらんとするに忠言とである多難な過渡時代に於て教育者として眞に意義ある生活に生き眞に理想の教育者たらんとする人々は勿論祖國を愛ふる赤誠の士も等しく來つて本書の絶叫する眞理を傾聴すべきである。

◇ 稻毛詛風氏新著 ◇ (著者自信ある感想評論集)

再版 感想 文化と自然

四六判 最上製
全壹冊 四百頁
金貳圓卅錢
送料 十二錢

人本主義文化主義の現代に於て吾々の興味は偏に人生と文化とに傾くのは極めて當然のことである。併しながら、生と文化とは直ちに實在ではない。而も人間の生活は大實在と合つた時にのみ始めて眞に永遠的普遍的なものとなるではないか。本書は斯くの如き見地に立つ著者が文化と自然とに對する觀察批判と感想とを披瀝したものである。人生を創造と見自然を神秘と觀する著者の透徹した文化觀自然觀は必ずや眞生活の追求者に對して新緑の朝の如き清新にして力強き印象を與へるであらう。

東京市神田區 大 同 館 行 發 振 替 貯 金 口 東 京 八 七 番 表 神 保 町 七

大 同 館 行 發 圖 書 目 録

内容目次一班

ア、サア・シモンズ……心霊のそよぎ……葉の葉……初秋の光り……藝術家と祈の心……秋の町より……下町住まひ……強く生さんがために……心の弱い青年……生活の底から……小精雨の日の……旅空から……心霊の扉を……秋の感謝……老乞食……人が道をさばく……迷ひ子……落葉の詩……秋は過ぎ行く……上野の森のあたりを……父……黄昏の空に……五月雨の日……雲……色な壁に……兄弟の話……木樫の家……千年川のほとり……父……黄昏の空に……五月雨の日……柳……福さるべき人……木樫の家……千年川のほとり……父……黄昏の空に……五月雨の日……柳……空……旅人は北より……カフエの窓……雨の音は悲し……青き朝……五月の夜……夜と青……空……旅人は北より……カフエの窓……雨の音は悲し……青き朝……五月の夜……夜と青……は疲れた……光りは過去の……故郷の人……人生は嚴肅なり……森を歩めば……冬の時……ウラジオ更紗……なドストエフスキイ……メレジニコウスキイと人間神……近代人の民衆愛……藝術短論……術の内容……超人論……種子は地に横かれた……藝術の搖籃……

早稻田大學講師 吉田絃二郎新著

好評 四十版 感想 心より心へ

四六判最上製美本
全壹冊紙數五百頁
正金 壹圓八拾錢
送料 十二錢

「生とは？死とは？」恐らく私たちは現在に生きつゝありといふ悲しき有難き尊い意識の他に何ものをも見出す事を得ないかも知れない。けれども私は今日自分の生きてゐる事の周囲の幾人かの可憐な人々ととりて慰藉であり、力であることを考へただけでも私の生活が無意義でないことを思ふ。たとへばつきりとした哲學は掴み得ないとしても私はそれだけの意味でも生きてゐなければならぬと思ふ。永却の時を通じてこの一刹那のみ相凭り相扶け合ふ事のできる、また感じ合ふ事のできる、人間の魂と人間の魂との觸れ合ひを除いてどこに生活があらう。(著者の感想より)

大 同 館 發 行 圖 書 目 錄

□東京帝國大學 文學士 今井政吉氏新著 □寫眞圖入
 □社會學專攻

好評 三版 露西亞文明記

四六判最上製
 美本五百頁
 金貳圓五拾錢
 送料十二錢

批評一斑

昔から露西亞は世界の翫であつたが、歐洲大戰勃發以來世界は更に一層多くの興味を以て同國を見るに至り、革命勃發後は更に愈々世界的興味、焦點が同國に据ゑらるゝに至つた。そこで我が國は、隣國的關係を有する特殊の立場にあるだけ一層露西亞に對する興味を深く感ぜざるを得ない。茲に於てか露西亞研究は實に我が國操縦界の一大潮流となり來つてゐる。朝に夕に露西亞に關する記事の雜誌上新聞紙上我等の眼に觸れぬ日は無いといふ有様である。が遺憾なことに未だ會て讀みたる手頃の冊子にして露西亞の國風全體を描けるものが無かつたのに、茲に

解體せる露國の前途如何？

これ何人も知らんと欲する所也。

今井文學士の本書を得て其の渴を癒やすを得たるは我等の心より欣幸とする所である。今井氏は數年間露西亞に滞在して其社會状態を具さに研究して此程歸朝せられたる士にして、其の記述する所一々實地の觀察に基けるものであれば安んじて信頼することが出来る要するに、露西亞の國風社會状態等全般に亘つて精細なる記述をせる點に本書の特色を見、露西亞に興味を有せる人士の逸すべからざる書であると共に各種學校の教授參考資料としても誠に有益なる著書である。

早稻田大學文學士 原田實氏新譯 □ 四六判全壹冊 最上製美本 金貳圓五拾錢 送料金十二錢

七版 エレンケイ 女史原著 兒童の世紀

エレンケイ女史の名は今や全く世界的である。女史の至純なる戀愛を高調し高尚眞面目なる結婚を主張するは何の故ぞ！其間に生る、兒童を眞の人格者たらしめんが爲である兒童を眞の人格者たらしむるは人類を眞の人類たらしめて幸福と平和と悦びとを此世に齎し生命に輝く世界を創造せんが爲めである。そして其第一の又最大の準備として女史の主眼するものこそ所謂「兒童の世紀」である。内容は兒童中心の思潮を徹底的に説けるものにして佛のルツソーの「エミール」に次ぐ大名著と稱せられ齊に教育社會のみならず一般の歐米人に甚深の印象を與へ今日の教育を導く一の光明となつて居る。譯者は夙に女史の偉大なる思想と人格とに敬服し多年其著作に親炙するもの其敬仰の熱情遂に技に女史が代表的著作の全譯となる或は涙に濡れ或は力に輝く其の原文を移植し得て餘す所なし我が思想界教育界婦人界は本書を得て一の至寶を加へたりと謂つべし。

早稻田大學講師 本間久雄氏新著 □ 四六判上製 美本全壹冊 正價金貳圓 送料金十二錢

三版 エレンケイ 思想眞髓

エレンケイ女史は最も熱烈に戀愛を高調し戀愛中心の結婚を主張し同時に戀愛のない結婚生活に向ふて最も大膽なる自由離婚を主張した人である。女史は性に對して最も大膽なる舊道德の破壊者であり最も熱烈なる新道德の建設者である而してこのエレンケイ女史の思想と人物とを最も平明に最も簡潔に最も味ひ深く書いたものは本書である

東京市神田區表神保町七
 大同館發行

大 同 館 發 行 圖 書 目 錄

稻毛詛風氏新著

四六判洋裝全一冊
紙數四百五十頁

金壹圓八拾錢

送料十二錢

若き教育者の自覺と告白

好評
九版

著者は新進の青年思想家なり。氏一度教育界を去るや教育界の謀反者と自稱す。而も斯界と小學教師の運命を思ふ一念切々の熱誠は遂に勃發して本書をなす。本書は正しく教育界に對する覺醒の警笛也。奮勵と慰安とを與ふる福音也。滿天下の有爲なる教育者に共鳴する悶々の哀情を披瀝せる者は本書也氏が、燃犀の炯眼は教育者の内生活と教育界の眞情とを抉剔して餘す所無く火の如き熱烈の言辭と花の如き多趣なる筆致とは人情の機微と學理の精到とを經緯して百花燎亂の觀を呈す。小冊なれ共全卷一の空言なく熱誠の氣紙面に横溢充實す。加ふるに多感にして自助の人たる氏が意氣あり趣味ある前半生は觀照眼と批判によりて潤麗の筆致となり最大膽赤裸々に告白せらる。意義ある生活を生きんとする者は本書を讀め。生と自己に自覺せんとする者は本書を讀め。教育者の眞價を知り權威を高めんとする者は速に本書を讀め。

目 録

- 前編 予が半生の回顧：後編 第一章 教育者の煩悶：第二章 煩悶と人生：第二章 煩悶と教育者：第三章 教育者の煩悶：第二章 煩悶と人生：第二章 煩悶と教育者
- 第一章 自覺と人生：第二章 自覺と教育者
- 第二章 安立と人生：第二章 安立と教育者
- 第三章 教育者の安立：附錄(一) 故郷の兄に：(二) 新しく女子師範に入りし友人に：(三) 新しく師範を卒業せし友人に：(四) 新しく女子師範に入りし友人に：(五) 新しく女子師範を卒業せし友人に

東京帝國大學文學部助教授文學士 植松 安著 — (類書中の白眉) —

七 版 古 事 記 新 釋

四六判最上製美本
全一冊五百餘頁
正 貳圓五拾錢
送料十八錢

著者はこの古事記を説くに當つて神代の巻に最も力を注いだ事を一言して置く索引については單語の解説を見出し得るのみならず古事記本文の事項を探り得るから目錄の代用となる。●難解なる古文を最も平易なる假名交り文に書下し振假名を附し詳細なる語義と引を添ふ。著者が國民心理を基礎として神代と上古との風俗人情に下したる評論的文章は各篇章に顯はれて大和民族發展の由來を明にし國民歸嚮の中心を説く是れ本書の特長なり。今や大戰後世界思想の急激なる變動は將に我國民思想に及ばんとす世界の日本東洋の日本我等の日本これこそこの事に得よ。

東京帝國大學文學部助教授文學士 植松安新著 (四六判最上製美本全貳冊) (紙數壹千參百餘頁箱入)

再 版 註 釋 假 名 の 日 本 書 紀

(上卷)
金參圓五拾錢
(下卷)
金參圓八拾錢
送料各廿四錢

日本書紀の一體に假名日本書紀といふものゝ存する事は從來一部の學者に知られて居たが未だ普く其存在を知る人が少い。本書は著者が出来るだけの手を盡して調べて得た廿餘種の異本を参照して著述したものである。内容は本文を漢字交りに書下し漢字に振假名を附し假名に漢字を當て一段毎に簡明なる註解を加へ索引として辨ずべき詳細なる目錄を添ふ。我國體の淵源を知り國民性の本質を明かにせしめ他の何人も是非一讀すべき書である。

發 兌 東京市神田區 大同館書店

◇文學博士波多野精一序 野村隈畔著(四六判最上製美本 金貳圓五拾錢 送料金) 早稻田大學教授内ヶ崎作三郎序 (五百餘頁箱入 金貳圓五拾錢 送料金)

版八 ベルグソンと現代思潮

本書はベルグソンと現代思潮との關係を説いて極めて詳密である即ち一卷の現代思想評論と見ることが出来る。内容はベルグソンの思想を中心として現代の哲學及生活の梗概を述べたものであるだけに獨りベルグソン哲學の特色と價值とを學び得るのみならず弘く哲學的思想を解する上に於ても亦尠なからざる價值がある文章は一度之を手に入れば知らず識らずの間に讀了せしむる魔力ある文體に依つたので感興殊に深い。近來絶無の良書として江湖に一讀をすゝめる——(六合雜誌評)——

◇松山高等學校教授 三並良譯著 (菊判最上製 金貳圓五拾錢 送料金) (美本全壹冊 十八錢)

東京神田表保町七 大田發行

版七 オイケン 人生の意義と價值

舊世界觀は倒たりと雖も新世界觀は未だ確立せず、思想界は紛亂し人間はその歸趣に迷はんとす。是れ實に現代の煩悶にして精神界一切の病源なり。オイケン博士が獨特の見地より此大問題の解決を試みたるものを本書とす。由來博士の所説は難解なりとの評ありと雖も本書の如きは決して然らず。博士も亦常に本書を最も平易の叙述と稱せり。そして博士と親交ある譯者が最新第五版によれる譯筆も亦た平明流暢なり。オイケン哲學の眞髓を知り人生問題を解かんとする者は之を繕かざるを得ず。……

文學博士 尾上柴舟 氏 尾上登良子女史新著 (系圖年表を附す)

忽三版 源氏物語大意

四六版最上製 美本五百餘頁 正金貳圓五拾錢 送料十八錢

國文の至寶と稱へられながらも其の文の古めかしくて語の囀り難きより讀み味ふに甚だ骨の折るゝ爲に世に敬遠されたるは光源氏の物語なり此の書は源氏の意を細かに噛みくだき俗に直して新しく現代の讀者の頭腦に容易に消化せしむる故に工夫したるもの大意とは云

類書中の白眉 文檢受験者必讀書

へ文情調勢語氣などもなるべく原本の儘を傳へんと苦心したるものなれば語中の男女の面影も粲然せしめて人物情景の活動等原本を讀むに異ならず源氏物語の縮約として最も成功したるものなり。巻頭に挿入したる系圖並に年表は單に本書の参照として趣味あるのみならず一般源氏を讀むものにも亦當事の事蹟を知る爲めにも極めて有益なるものなり。

◇大谷光瑞氏講評・上田恭輔氏新著 (有益にして趣味)

東京神田 大田發行

新刊 國語中の梵語の研究

袖珍洋製本 全壹冊 金五拾錢 送料八錢

國語中の外來語は相當に澤山あるが特に著しきものは梵語である之れを數へたら澤山ある而かもこの多數の梵語が殆んど國語に同化して仕舞て一般國民は夢にも天然より舶來せしものと氣附ずには日常平氣で使用して居る今其の内の文學的乃至歴史的に興味あるもの三十語を選び讀者の讀物として提供したるものである大谷光瑞師の批評は前人未發のものです。(著者)

◇早稻田大學教授 内ヶ崎作三郎序・工藤直太郎新著◇

新刊 人間文化の出發

四六版最上製
美本金壹圓
正價金貳圓
送料十二錢

〔内ヶ崎氏序して曰く〕……工藤君は早大英文學を修めた人であるが其趣味甚だ多方面に亘り哲學宗
教文藝に就て特異な理解と智識とを有してゐる少壯評論家中大に推獎すべき力量を備ふ。本書は同氏が多年
の蘊蓄を傾倒したもので内容は數多の見地より縱横に新文化を解説し評論したもので隨に文化運動に對する
一頁獻であり我が思想界に對する第一聲である。

〔内容一斑〕 人間文化の根本原理……文化發生の階段……人間愛と民衆生活……人間への思想……近代文化と
唯物史觀……私有財産の文化的孝祭……人格の解放と社會主義……人間愛の宗教的根柢……近代
自由主義の限界……社會的不安の諸原因……人間生活の二表現……文藝の民族的基調……近代
級の貧民と人道主義……文藝上の傳統主義……ユーモアと人間愛……原始愛に生くる藝術

◇三島章道氏新著◇ (著者自信ある佳作選集)

好評 感想文集 若き泉

四六版最上製
美本全壹冊箱入
金壹圓八拾錢
送料十二錢

〔内容一斑〕……佛國ランス紀行……大磯の或る夕邊……若き旅のすさび……眼の印象……故國に歸りて日
本の女……温情と言ふ事……冠を被つた筆跡……或る手紙をよみて……生活の興味慰安……エスベラント……
劇藝術に就いて……幼き弟……雜感……ある對話……年若き友へ……二つの戀愛對話……老人と青年の對
話……夢の對話……外數編……

◇一條忠衛氏新著◇ (四六版最上製 金壹圓八拾錢 送料金十二錢)

再版 男女の性より觀たる社會問題

(時事新報批評)

性? ア、また彼れかと早合點しては不可ない兩性の差別に立脚して近時の社會問
題に對する嚴肅な合理的事實の考察であつて輕挑な分子はさらに含んでゐない今までの社會問題は經濟生活
の上から主として取扱つてゐるか男女の性といふ人生の根本より研究して社會問題解決の新しい方法を見出
さうとの目的で書かれたのである先づ男女の性の本質を説いて人類の生存互助を論じ女子の參政權は其の要
求を俟たずに男子が兩性本位の代議制を實施する爲進んで協力すべく治警法の撤廢と共に姦通罪をば刑法よ
り削除すべしとの大膽なる意見を述べ女子の労働及職業に説き及ぼして最後に産兒制限に關し之れを文化の
敵である正義の賊であると叫び新マルサス主義の避妊論に及び著者が高い人格者としての道徳觀が現はれて
居る附録の古典に現はれたる男女道徳觀は原典の本文を引いて直接に味讀せしむる方法で整ひの解説よりは
遙かに優れた試みである。

◇一條忠衛氏新著◇ (大好評を博して増刷出來)

新刊 人格主義の社會觀

四六版最上製
美本全一冊箱入
正價金貳圓
送料十二錢

〔日本及日本人批評〕 人格主義を根柢として、社會改造・道徳法律參政權・労働倫理・東洋道徳政策・生
命の保護・個人主義・家族制度の國際道徳・孟子の倫理説・等に就き、縱横に論述して居る新人の著として確に
一讀の價ひがある。時局に對する道徳批判としても頗る意義が深い。眞劍味の徹した書である。

東京市神田區 表神保七町 大 同 館 發 行 振替貯金口座 東京八七番

東京市神田區 表神保七町 大 同 館 發 行 振替貯金口座 東京八七番

◇文學博士富士川游一序
 ◇佛教大學教授梅原眞隆一文
 文學士朝日融溪氏新著

七版 親鸞聖人の出現と思想

四六版最上製
 美本全壹册
 正價壹圓八拾錢
 送料十二錢

歴史は時代々々の偉人と稱へらるゝ非凡人の記録であつた。彼等は自己を以て世を化せんとしてゐた。或は政權によつて或は軍權によつて或は金權によつてさうして互に交噬し相排擠し血みどろになつて喘いでゐる吾人はつくづく非凡人文化に愛想が盡きた。嫉妬・排擠而して自己宣傳も見るも聞くも嫌だ一日も早く凡人文化の建設に急がなくてはならぬ早ければ早いだけ眞の平和は早く來るのだ而してこの凡人文化の歸結は我が親鸞聖人の思想によつて完しといつてよいのである。

◇渡部政盛氏新著◇ —(青年教育の慰安書)—

再版 異端者の悲しみと歡び

四六版最上製
 美本全壹册
 正價金貳圓
 送料十二錢

異端者の悲しみと歡び!! 本書は此の獨學者の孤獨者異端者が卅年の思想及生活を記録し披露したものである。家庭の遺囑と身體的缺陷とは早くも彼れを孤獨に導いた彼は孤獨ながらに伸びた。彼は學校歴と云ふものをば有たない檢定難と異端者の不取扱の中に變則的に其の自我を實現した而も彼は今日教育思想界學術界の一大野梁として社會的に認識せらる。沈痛なる「異端者獨學者の悲しみと歡び」が青年の胸に孤獨の貴さと人間性の偉大と多大の慰安光明とを與へずにはおかないであらう。

東京市神田區 大田區 表神保町七番地 大同館書店 發行
 東京市神田區 大田區 表神保町七番地 大同館書店 發行

◇渡部政盛氏新著 (隨一の民衆哲學辭書提供)

三版 最新哲學辭典

菊判最上製美本
 全壹册背皮箱入
 金五圓八拾錢
 送料廿七錢

(本書の特色) (一)現代文化民衆の哲學慾を充すを目的として編纂したる事 (二)文章平易記述繁簡宜しきを得て一讀直ちに其要點を捕捉し得る事 (三)内容は哲學概論・東洋西洋哲學史・倫理學・東洋西洋倫理學史・論理學・美學・宗教・社會學・經濟哲學は勿論・生物學・心理學・哲學藝術上の最近思潮特に現代哲學の記述に萬遺憾なからん事を期す (四)所謂廣義の哲學以外現代の文學藝術社會問題經濟問題政治問題婦人問題等にも亘りたる事 (五)學生及文檢受驗者の便を計り史上上の問題を詳述したる事 (六)文化生活への奉仕として正價を最低至廉ならしめ其の普及を圖つた事等である要するに本書は現代人に缺く可らざる哲學の鳥瞰圖ともいふべき書也。

◇東京豊島師範學校教諭 栗原寅治郎著 (好評激甚増版出來)

五版 改造世界地理精説

菊判最上製美本
 全壹册七百頁
 金五圓八拾錢
 送料廿七錢

本書内容は材料選擇に當りて特に我國との關係的方面を重視し世界の大勢に通ずると共に直ちに彼我刻下の形勢を理解せしめ今後の國民として國家的生活を營むに十分なる資料を自然人文の兩方面より精査して集むるに努めたり要するに世界地理參考書として現代では本書を以て第一なりと大なる自信を以て推奨する所以なり。

發兌 東京市神田區 大田區 表神保町七番地 大同館書店

◇東京帝國大學文學部助教授 植松 安氏著 (増刷出來)

新刊 記紀の歌の新釋

四六判最上製美本
全壹册參百頁
正價金貳圓
送料十二錢

古典の國民化これ私しの大に望む所であつて曩に(古事記新釋)(假名の日本書紀)とを著はしたが今又こゝに記紀の歌のみに就いて書いて見た。古事記は文學日本紀は歴史と云ふ著者の見方である本書はもと和歌の講義として執筆したものであるが完結と共に修補したものであるもとより新論と云ふでは無いが現今の一般が参考として讀むには便宜であると思ふ。(著者)

◇荒井庸夫氏新著 (人間としての將門研究)

好評 平將門論

四六判最上製美本
全壹册參百餘頁
正價金貳圓
送料十二錢

將門は世間から或は逆賊とよばれ或は郷土の英雄と崇められ或は鬼の子か人の子かなどと稱せられてゐる著者は其説の分れてゐるのを遺憾として將門に活動して歴史的人物として没することの出来ない史的人間たる將門を三編に分ち詳述せるもの尙將門と關係ある幸運兒田原藤太秀郷とある書である(報知新聞評)

發兌 東京市神田區 大同館書店

日蓮宗大學講師 文學士 小林一郎氏新著 (日蓮の教義)

版六 日蓮主義講話

四六版最上製美本
全壹册五百六十頁
金貳圓五拾錢
送料十二錢

日蓮主義は現時の思想界に勃興せる新勢力なり。本書は從來の宗派を離れたる自由の見地より日蓮上人の事蹟と教義とを平易の語を以て講述し日本國民信仰の歸着點を指示せるものにして未だ信ぜざる者は之によりて新なる生命を得べく既に信に入れるものは之によりて現今の時勢と宗教との關係を了解し得べし特に青年の人々に本書の熟讀をすむ。

日蓮宗大學講師 文學士 小林一郎氏新著 (隨一の修養訓)

版五 日蓮主義日訓

袖珍最上製
全壹册二百三十頁
金壹圓八拾錢
送料十二錢

忙しき世に立つ人は靜なる心をもつことを必要とす。忙しき人は決して修養を忘るべからず。本書は法華經と日蓮聖人遺文集とより修養上に最も適切な金言三百六拾五を選出し之を毎日に配し之に簡單にして明快なる解釋を加へたるものなり。何人も毎朝其の業に取掛る前に本書を開かば愉快にして力強き心を以て其日の業に當るを得べし。本書は實に此の忙しき世に立つ凡ての人の師友なり。

發兌 東京市神田區 大同館書店

◇市川虚山・小關愛村氏共著 (教育者の修養書)

版三 ペスタロッチ全集

四六判最上製本
全壹册五百餘頁
正價金貳圓
送料十二錢

本書は近代教育思潮の權威にして實際教育の創造者たる世界的教育家ペスタロッチが變遷極り無き數寄的傳記を熱烈の筆を以て縱横に述べ其の代表的名著の梗概或は全文を平明的確に叙述紹介せり。かの難解晦澁なる翻譯書とは全然其の選を異にし快文才筆流るゝが如く讀者をして卷を措く能はざらしむ。苟も任教育にあるの士にして眞摯なる生活に生きんとする人は速に本書を手にして自己の心靈に此の偉人の靈火を點せられよ。

◇原田 實氏新著 ◇ (人間の力と光とを光輝せねばならぬ)

版四 人間への教育

四六判最上製美本
全壹册五百餘頁
金貳圓五拾錢
送料十二錢

人間の力と光とをもつと學校や家庭や社會に活動せしめねばならぬ。私は切に人間の心を思ひ人間の姿を想はざるを得ないこの思慕と志向とが本書を書かせたと云へる私は私達の家庭と學校と社會とは今や人間への教育を深く考へて見なければならぬ一大危局に立つて居ると云ふ事をつくろ思ふものである。(著者)

發兌 東京市神田區 大同館書店

大 同 館 發 行 圖 書 目 録

意義ある生活を求める人士の一讀を望む!!

◇小林一郎氏新著 ◇ (最新刊發賣)

好評 激甚 勝曼經通解

四六判最上製美本
全壹册三百餘頁
金貳圓參拾錢
送料十二錢

眞の佛教は所謂佛教徒の佛教ではない。活きた世間で人類の生活に大なる光明を與ふるものが眞の佛教である。勝曼は妙齡の一婦人であるが佛教の神髓を得て其の夫を初め周圍の人を盡く感化した。釋尊は深く之を嘆賞せられて阿難等の人々に之を普く世に宣傳すべく命ぜられた。眞の佛教を知らんとする者は勝曼經を讀まねばならぬ。聖德太子が殊に力を用ゐて此經を講ぜられたのも道理である。著者は從來の傳統を離れた自由な立場から此の經を解釋した。特に餘論三十章に大なる苦心を注いだ。是なら如何なる人にも分る善道と信じて居る。意義ある生活を求める人々の一讀を望む。(著者識)

井上庄三譯 ●性と自我 (若き婦人) 四六版箱入 正價金貳圓 送料十錢

若き婦人の種々な疑問解決し難い煩悶を懐き乍打明けて相談する人、適當な指導を與へてくれる人を得ない爲に遂に其本性を誤つて如何しい道に迷ひ込み不道徳に生きて行く事は少なからずある事です。本書は實にかゝる婦人の相談相手として過を未然に防く爲に生れたものです。若き婦人達は一讀せば本書に依つて大に啓發される事と存じます。切に御愛讀をおすめします。

◆奈良女子高等師範學校訓導 櫻井祐男氏新著

忽六版 生を教育に求めて

—(四六判最上製美本 金貳圓八拾錢 送料十二錢)—

東京神田 大同館發行

著者曰く私はよほどの感傷と敬虔をもつてこの書を私の同伴の士たる天下無量の青年教育家諸君に捧げたいと思ふ。主人公欽一は人生の寂寥さに悶えながらも尙ほ己が生の尊貴と優越に深き固き信據と信念を有ち教育を以て己が人生——生活と史料し其生活的顯現の爲に日夜の赤誠を致さうとしてゐる。而かもそこに總てを捨て、總てを獲ようとする矛盾撞着のたゞ中に仁王立ちに奮激してゐる彼が性格の強き弱さが思はれるであらう。その強き弱きから来る彼の懊惱と約略は解決は解決のままに未解決は未解決のままに必ずや讀者諸君の人生の上にて何かの示唆と感奮を齎すであらう——ことを疑はない。

内容目次一斑 (一)唯一途に吾れを愛すが故に……(二)紅き血と高き鼓動と……(三)「教育即生活」と信念するまで……(四)天の慈光地の靈暈……(五)雛を有つ母鷄を慕ひて……(六)子供よ、總ての絆を解いて平明に足……(七)哀れ子供れの靴……(八)窪合ふ如き翠雨……(九)骸の出動を厭ひて……(一〇)疲れても尙ほ輝かしき遠かに柔和に自然に……(一一)生れざるもの悲哀……(一二)梧桐の蔭に立ちて……(一三)總てがない生活——美……(一四)温日を休ふ……(一八)啼かざる鳥……(一九)總ての制縛に堪へて……(二〇)奈良に來て唯一の財寶……(二二)唯一のものは辱し……その生は震へてゐる……(二三)同志よ來れ語らうに……(二四)同職の士よ何を見ん。

■津田光造氏新著 ■四六判最上製 正價金貳圓 送料十二錢 美本四百頁

一宮尊徳の人格と現代

本書は「一宮尊徳の民主生活」の姉妹編として書いたものである。前のは翁の哲學若くは思想生活を主として紹介したのであるが今度のはあの哲學を生むに至つた翁の人格と生活との評價を試み、その現代との關係を論究しようとしたものである。過去の偉人に對して代名詞に「翁」とか「先生」とか云ふ敬稱を用ふる事は吾々の禮儀であり尊崇の表示であるにも拘らず、本書は必ずしもそれに據らず、時に之を用ひ、寧ろ「金次郎」とか「彼」とか云ふ平常の様式に出づる事が多かつたのは本書が單なる傳記でなく評傳であるからである。斯かる意味から私は今度の試みに於て一方に於て益々彼の聖人味を高調する事を努めたと同時に又他方に於て出来る丈彼の人間味を發揮す「青年教師の懷疑」は一青年教師の現代の事を怠らない事にした。卷末に載せた「青年教師の懷疑」に於ける官僚の形式主義の教育と生活とに對する止み難き反抗の聲であり其感想の手記である彼が一宮尊徳の人格と生活とに接して如何なる感化を受けしかば偏に讀者の批判に待つ。

東京神田表神保町七 大同館發行

津田光造著 ■一宮尊徳の民主生活 全 金九拾錢 送料八拾錢

第貳版

◀ 音福大最の者驗受檢文 ▶

□ 東京高等師範學校教授文學士 中村久四郎 先生序 高橋與惣先生新著 □

第五版 文部省檢定 受檢用 東洋通史

菊判最上製美本全壹冊紙數七百頁箱入 正價四圓八拾錢 郵稅拾六錢

類書中の白眉 本書は各種中等學校の教授細目を基礎として四編獨創の配案に據り上下五千餘年に互れる東洋史の全斑を盡く有機的連絡の下に最も平易正確懇切に通説し更に第一回より第卅回に至る迄の文檢試驗問題を盡く明瞭に解答せるものと東洋史學の新説とを本文の間に分載せり。殊に本書の特色は從來の東洋史の最大缺點たる記述の難解無趣味冗漫繁錯等の通弊を補ひし外最近東洋外交史上の事件人物迄も努めて之れを詳説したれば當に文檢受驗者の一寶庫たるのみならず各學校の參考書としては勿論史學研究者世の識者も座右に供へて大いに便益なかるべからず。

本書特色 文檢第一回より第卅回に至る迄の東洋史問題を盡く明瞭に解答して便宜を計りたる事。桑原博士、市村博士を初め檢定委員の著述は勿論現今讀まれつゝある類書は盡く参照せり。

大 同 館 發 行 圖 書 目 錄

▲ 人間教育の意義を定立する上に新なる見解を與ふる書

□ 江幡龜壽先生新著 □ (好評激甚) —

三版 教育的生物學

四六版最上製美本 金貳圓 送料十二錢

生物學は地球生物群の成立發育の因由茲に其法則を明かにせんとする學である此の學に依らずんば人間の真相・人生の歸趣を知るを得ず。本書は生物學を専攻し教育の實際にはた行政に經驗ある著者が教育的見地より生物學を平易に講述せられしものにして實に國民必讀の書なり。從來の皮相空漠なる人間教育論に飽き眞に生きさんが爲めの教育學を建設せんとする者はすべからず此の學を究めよ

人事界の一大進歩 國民必讀の要書

次目容内

第一生物生活の二大象徵：第二生存慾の具體的表現：第三原始生活より知的生活：第四生物學的國家觀：第五死と永生：第六卵より成體になるまで：第七遺傳と人生：第八生の闘争と人口論：第九生命の繼：第十人類の運命觀：第十一生物の系統史：附錄生物學上より觀たる人間作成の力：(以上細目略す)

「變態心理」主幹
文 學 士

中村古峽氏新著

第八版

變態心理の研究

—(四六判最上製美本全壹册五百頁)

正價金貳圓五拾錢 送料十二錢—

本書は、變態心理學に造詣深く、且つ催眠實技に於て、殆んど入神の技能を有せる著者が、催眠現象を初め、潜在精神▽二重人格▽幽霊の出現▽狐狸の憑依

我學界隨一の新著

▽透視念寫並に不良少年精神病者の心理等、諸種の變態心理現象を飽くまで、學術

的且つ通俗的に説明したる、我學術界唯一の新著にして、特に世上の山師が、心靈を名として、諸種の瞞著手段を行へることを素破拔きたる一章は、最も痛快を極む。著者は更に、多年の實驗中より、精神治療の實例十數種を詳細に報告し、就中二重人格者の施術法及夢の新實驗等は、全く著者の創意に屬す。教育家、宗教家、醫師、法曹家は勿論、一般家庭の父兄諸氏の必讀を望む。

（完備せる最新最詳の世界教育全史出來）
渡部政盛先生新著

【菊判最上製美本九百頁 金六圓八拾錢 郵稅廿四錢】

第五版

文檢教育科 文檢教育史

文檢教育科 受驗者必讀書

本書は既刊教育史の一般的缺陷を補ひ併て文檢受驗者の好伴侶たらしめんと著されたる者なり。特色とする所は(一)日本東洋西洋とも古代より現今(二十世紀)に至る迄の史實を全部網羅したる事(二)從來の教育史に無き支那以外の亞細亞諸邦の教育及日本新領土植民地の教育をも記述せる事(三)系統的にして簡單明瞭ならん事を努めたる事(四)從來問題として出でたる事項に就きては特に詳細なる解答的研究を試みた事(五)練習問題を挿入したる事等なり故に教育史の研究は本書一冊にて十分なる事は言ふ迄もなし

内容目次一斑

緒論：教育史の意義：教育史の價值：教育史研究法：三大教育史の特色：本書の目的及内容：西洋教育史：第一編古代の教育：第二編中世の教育：第三編近世の教育：第四編最近世の教育：東洋教育史：第一編支那の教育：第二編支那以外に於ける亞細亞諸邦の教育：日本教育史：第一編古代の教育：第二編中世の教育：第三編近世の教育：第四編現代の教育：第五編日本新領土並に植民地の教育：（以上各章及細目は略す）

大同館發行圖書目錄

渡部政盛先生新著 菊判最上製表本 全壹冊五百餘頁 參圓八拾錢 送料金廿四錢

日本教育學說の研究

我が國の教育學は今や全く行詰て仕舞つた。吾人は之を打開せねばならない。本書は斯くの如き貴き使命を帯びて公にされたものである。内容は諸論：第一章明治前半期の教育學說：第二章日本最近の教育學說：第三章個人的教育學說（谷本）第四章社會的教育學說（熊谷、樋口、吉田、田中、野田）：第五章調和的教育學說（大瀨、森岡、小西溝淵）：第六章生活完成の教育學說（下田）：第七章文化的教育學說（乙竹）：第八章人格的教育學說（中島）：第九章實際的教育學說（澤柳）：第十章自勵的教育學說（河野）：第十一章公民的教育學說（川本）：第十二章創造本位の教育學說（稻毛）：第十三章分團的教育學說（及川）：結論：の諸章より成つてゐる。特色は諸家の學說の詳叙と忌憚なき批判とにあるは言ふまでもない。隨て學者先づ本書を讀むの義務があり。教育學者文檢受驗者は本書に依つて學者の說の要點と長短とを知る必要がある敢て弊館の大言以て江湖に本書を推薦する所以である。

文檢受驗者の最大福音

▲教授用と檢定受驗用とを兼備せる隨一の國史參考書▼
 國學院大學 講師 文學士 岡部精一氏 高橋與惣氏共著

三 文部省檢定 大日本歴史 版 試驗問題對照

菊判クローズ製最上美本 紙數九百五拾頁 全壹冊 金六圓八拾錢 郵稅十六錢

本書は各種○校の國史科教授の參考に供し兼て各種の受驗準備に資せんが爲めに編纂せるものにして教授參考に供する方法としては現行文部省の中等學校及教小學校の授細目を基礎とし之れを適宜配合して編章を分ち國史の本幹を形成せる事實を精細に通説し又古今史學家の發表せし新説の穩健なるものは努めて之れを採録せり。試驗準備に資する方法としては第一回より第廿六回に至る文檢試驗問題を發問者の要求を推究探尋して一々精密に解釋し盡く各章末に添附せり。加ふるに編者多年の經驗と研究とを以て些の遺漏なきを期したれば諸學校に取りては繁簡適宜あらゆる重要史實を網羅して餘蘊なき最も完備せる國史參考書たるべく檢定受驗者殊に小學校教員諸氏に取りては教授用と受驗準備用とを兼備せる斯學隨一の羅針盤たるべし。

發行所

東京市神田區表神保町六番地 振替貯金口座東京八七貳番

大同館書店

小學校に是非一本を備ふ可き良書

明治教育社編輯部編纂

(發行底止する所を知らず)

文 檢
受 驗 用

國民道德要領
附 實 踐 道 德 要 領

四六判最上製美本
全壹册紙數五百頁
正 價 貳 圓
郵 稅 十 二 錢

好評
廿版

文檢試験の規定が改正になつて各科の受験者に「國民道德要領」が課せらるゝことになつた。本書は是等の受験者の爲に出来たもので材料の選擇と云ひ記述の體裁と云ひ總て受験者に都合よく出来て居る。主として委員の説をとり之に數十大家の説を參考として掲げてあるから此の書を見れば國民道德の要領は最も手取早く會得せられる。且つ文章が平易であるから讀むに骨が折れず。近來類書中の白眉である。——(帝國教育評)——

明治教育社編輯部編纂

(好評激基初版賣切増刷出來)

文 檢
受 驗 用

教 育 大 意

四六判最上製美本
全壹册紙數五百頁
正 價 貳 圓 參 拾 錢
郵 稅 十 二 錢

好評
九版

本書は「國民道德要領」の姉妹編にして本社が特に合格者の秀才に執筆を依頼したるものなり。其特色は合格者の經驗を基礎として編述したる事内容豊富にして且つ受験者に都合よき様に記述したる事試験委員の説を隨所に擧げたる事問題解答を掲げ且つ類似問題を多く載せたる事文章の平易なる事等に在り。されば文檢教育科並に教育大意受験者は勿論各府縣小學校教員檢定受験者にとりても無二の好參考書なり。

教育學術會編纂

四六判洋裝美本
全壹册約三百頁

金壹圓七拾錢
送料金十二錢

最新刊

文檢教育大意。國民道德要領問題解答

文檢各科受験者
必讀書發賣

本書は文檢「教育大意」「國民道德要領」受験者の爲めに第一回より最新大正八年度までの全問題に對して解答を試みたものである。故に讀者は本書に依て答案作製の次第と程度とを知り更にこれを記憶することに依て同一問題の出でたる場合合理的なる解答をなすことが出来る附録二篇は「教育大意」「受験法と「國民道德要領」受験法で同時に參考書・研究法・答案の心得等をも收めてをる。要するに兩科受験者の最良相談相手である。

教育學術會編纂

四六判最上紙
美本全壹册

正 價 金 貳 圓

送料十二錢

第八版

文檢教育勅語
受 驗 用 戊 申 詔 書 解 義

苟も本書を讀みし者にて文檢國民道德要領受験中の勅語及實踐道德の問題に對して一も解答し得ることなし。文體亦頗る平易如何なる人も文を解するに苦しむが如きことなし。受験者諸君の必讀をすむ。

東京帝國大學 文學部教授 宇野哲人先生新著

支那哲學史講話

最新刊
全書五百頁
正價金 貳圓五十錢
郵稅拾八錢

好評 廿版

本書は上古より清末に至る支那思想の概要を極めて平易に簡明に叙述して最もよく要領を盡くせるものなり特に清朝に於ける學術思想の變遷が如何に暗々裏に革命を惹起するに至りしか支那の哲學家の思想は如何なる傾向を帶ぶるか著者の最も留意せし所に於て從來世に行はれたる支那哲學史の缺陷は本書に依りて補足せられて亦遺憾なし本書は又附録として一々原文を掲げて直ちに堂奥を窺ふの便に供し亦著者の議論の根據あるを知らしむ要するに本書は初學者にも専門家にも座右に缺くべからざる絶好の新著なり。

教育學術會編纂 (文檢 修身科 漢文科 國文科 受験者の福音) 最新刊

文檢 論語解義

四六判最上製美本
約六百餘頁箱入
正價金 貳圓八拾錢
送料十八錢

修身科漢文科の文檢試験には毎年論語から問題が出る問題は字句の解釋と思想の叙述とだがかかる要求に十分應じ得る参考書は從來見當らない本書は此の要望に添はんとために編纂せられたものである。内容は(一)所題(二)字句講義(三)思想研究の三篇より成り思想研究の部には根本思想倫理思想政治思想人性に關する思想教育思想宗教思想其他を闡明した最後に論語思想を現代の思想の上から縱横に批評を試みた文檢修身科・漢文科・教育科受験者の是非一讀すべき良書である。

東洋大學教授 加藤咄堂
東京帝國大學教授 島地大等
東京高等師範教授 境野黃洋
東洋大學々々長

三氏序
中村碧湖 共著
松岡良友

好甚評 激

最新刊 熱と力と 本願寺全史

(四六判最上製美本 全書冊六百餘頁 正價參圓貳拾錢 送料十八錢)

一世の豪雄織田信長をして 抜き難しめたる所以のもの一に之れ 嘆ぜしめたるあり民衆の力である 信仰の力である 世に親鸞を説き連如を語りしものは 決して尠からず。されど宗祖以來の 決して尠からず。されど宗祖以來の 百有餘年終始民衆を中心として活動 せし本願寺全史は未だ發見せざるべ し。本願寺第一期創設時代(觀鸞よ り三世運如)第二期戰國時代(九世 信仰の力である)第三期中興時代(八世 運如)第一期創設時代(觀鸞よ り三世運如)第二期戰國時代(九世 運如)第三期中興時代(八世運如) 實如より十一世顯如)第五期東西分立時代(良書なり)現代之文章は平易簡明にして 伏を明鏡に照して詳説評論せし。眞宗五百萬の門徒と二萬有餘の寺院住職は勿論 味亦津津として盡きざるべし。眞宗五百萬の門徒と二萬有餘の寺院住職は勿論 心を人生問題生活問題等に潜むるの士は是非一度本書を繕かざるべからず。

◆渡部政盛氏新著◆ 菊判最上製美本箱入 紙數七百餘頁全壹冊 金五圓八拾錢 送料金廿四錢

三版 集說 批判 教育學概論

本書 六大 特色

- ▲教育概念の批判的本質的闡明
- ▲教育基礎論なる新研究項目の特設
- ▲教育學概念の科學的哲學的論明
- ▲教授訓練二方便説の徹底的主張
- ▲新教育學體系の模範的確立
- ▲最近教育思潮の批判的攝取

本書内容は(一)歴史批判(二)事實批判(三)現代思潮批判(四)目的々本質的批判に立脚して最眞最美の教育原理を闡明し實際教育に對して最も根本なる最も最新なる規範を提供したのである。教育一般を研究の對象として科學に立脚しながら哲學を忘れず、教育の意義・教育學の概念を諸方面から縱横に考察論明し特に理論的教育學の新體系を確立し教育原理の基礎論として詳細なる被教育者論及社會人生論を試み目的概念としての文化的人格の形式内容を精説し教授訓練の二方便説に隨て方法論を二分的に説述し最後に独自の見地から教育動力論(教育者論)を試み機關論をなした。系統的てふ形容の意味は本書に於てのみ味ふことが出來やうかと思ふ。本書は眞に集說的にして批判的である。教育學研究者文檢受驗者學校圖書館の必備及清鑑を俟つ所以なり。〔執筆六個年で定成せる苦心の大家著〕

東京神田表神保町七
大 同 館 發 行

◇早稻田大學教授 中島半次郎 序 氏 大久保 龍新著

第三版 生 さんとする心の叫び

四六版最上製 美本五百餘頁 正價金貳圓 送料十八錢

青年時代の鬱勃たる氣魄を大膽に眞率に率直に描き出したるものが本書である。眞實の生活を以て生涯を一貫せん堅く企圖として立ち一日一日を充實の生活を以て貫かんとする一青年の熱情が迸つて凝つて其文章をなしてゐる。休體的發洩たるその一語一語は犇々と人の心をえぐり或は發奮せしめ或は感泣せしめ或は悲憤せしむる一種獨特の純情に成る。第一の「生さんとする心の叫び」は綿々として心の内奥に喚び入り第二に「開かんとする書の扉」は唧々として情の錦線にふれ、第三の「夢の如くにして如實の生活」の通ひ路、恩師の死、小使の身の上は一讀思はず泣かしめ、第四の「眞生活の熱叫」の學生論校長論、女子問題等の雄辯は熱狂的の叫びである、一度机の上に運ばれんか蓋し巻をおふ事を忘れるであらう。

◇大久保 龍編著◇ (綴方研究者必讀書)

新刊 上手に出來た綴方

袖珍最上製 全壹冊三百頁 正價金壹圓廿錢 送料十二錢

綴方は表現的學科として最も力を注がねばならぬ學科である。「文は人なり」とは全人格の發洩が凝つて以て人の心をうごかす文の偉力をいふのである此の書はその目的を究極理想としてゐるのである綴方教授上此の一編を机上に置事は如何に便益が多きかは想像にがたくない兒童も亦多くの小冊子をあさるよりは此の書一冊を机の上にそなへんか其の實力はたちまちにして上達するであらう。

東京神田
大 同 館 發 行

◇永野芳夫氏新著——(世界唯一の研究書です)——

最新刊

デューイの哲學說研究

四六判最上製
美本全壹冊
金貳圓
送料十八錢

(永野芳夫著) ●デューイの教育學說の研究 (正價金貳圓 送料十八錢 姉妹篇)

系統や組織を立てないデューイ哲學の全般を知ることは至難である。従つて彼の哲學の系統的的研究は著者の本國アメリカにさへない其の意味でこの書は今の所世界唯一の組織的系統的的研究書であるデューイの教育說は地球の全部を包まうとしてゐる。それなのに其教育說の基礎なる哲學說を本當に知り得てゐる人は少ない。本書は概論である故にこれに依つてデューイ哲學全般の骨子も知られるデューイ思想を眞に知らうとする者は必ず讀れたい。

◇東京帝國大學教授 島地大等(氏)文學士 朝日融溪氏新著

最新刊

感想一筋の白き道へ

四六判最上製
美本全壹冊
金壹圓五拾錢
送料十五錢

親鸞聖人の出現と思想 (五版) (金壹圓八十錢 送料十八錢 姉妹篇)

親鸞聖人の出現と思想 (五版) (金壹圓八十錢 送料十八錢 姉妹篇) 報知新聞評——讀書界の傾向は今や宗教的方面へと集中してゐる。この書もその一つである人間の明るき生活輝ける生活といつた確なものを中心として日常生活の迷ひを除き自暴自棄の危難を避け専念に與へられたる一筋の白き道へ進む事を説いたもので宗教思想を説いたものとしては例のなづみ難い佛典がなく青年の讀みものとしては喜び迎ふべきものである。

東京 神田 大
行發館同大

□東京帝國大學文科助教授 文學博士 宇野哲人先生新著

四版

四書講義 大學

菊判最上製美本
全壹冊參百五拾頁
正價金貳圓
郵稅金十八錢

大學は儒教の目的を最も善く組織的に叙述せるものなりとは著者の創唱する所、此書は如上の見解によりて平易明晰に講述せるものにして冠するに大學要旨を以てし附するに索引及之と密接の關係ある幾多有益の研究を以てす。苟くも儒教の何物たるかを知らんと欲せば必ず此書を讀いて著者の圓熟せる講話を聞かざるべからず。

東京 神田 大
版藏館同大

□東京帝國大學文科助教授 文學博士 宇野哲人先生新著

五版

四書講義 中庸

菊判最上製美本
全壹冊壹百八拾頁
正價貳圓五拾錢
郵稅十八錢

儒教の目的は大學に備はり、儒教の根本義は中庸に明かである。かくて學府の二書は經となり緯となり。互に相待つて儒教の眞相を傳ふ。著者は如上の見解を以て先に大學講義を著はし今亦中庸講義を著す。大學に由て既に儒教の目的を明かにせる大方の士は請ふ更に中庸に就いて儒教哲理の眞面目を了せよ。尙附錄教篇は皆直接間接に中庸の意義を明かにするものである。

文獻受験者
必備の要書

野村隈畔先生新著

(現代文化の哲學の姉妹編)

自我批判の哲學

四六判最上製美本
全壹冊約六百頁

正價金貳圓

郵稅金拾貳錢

如何なる思索も如何なる哲學も自我の本性に徹底することより深遠なるものはない。現時哲學界に於いて絶對自由の意志を説き、絶對價值を高調し或は生命の流動を主張するものありと雖も自我の具體的本性に徹底するものなきは現代の生活

現代生活のどん底

より生れたる新哲學

要求を裏切る根本的缺陷である。著者はカントの理性批判に嫌らず、ベルグソンの直觀批判に満足せず自ら進んで獨特な自我批判の哲學を建設した。是れ現代の生活要求を根本的に確實ならしめ且つ凡らゆる思想主義を批判的に基礎づけるもの蓋し我國最新の哲學であらう。而して餘りに専門的でなく又常識的でなきは何人も必讀すべき哲學である。

目次

一序論……二自由文化の建設……文化の方向の具體的考察……自由文化の建設……三自我の意識……自我の純粹自己意欲……當爲性……文化性……形而上性の發展……四自我の發展……文化考察の二方面……當爲性の發展……自由性の發展……形而上性の發展……五結論……自由文化の内觀……自由と愛……自我哲學と文化哲學……附錄三篇……

503

231

終